

聖徒の道

12

VOL. 11 No. 12



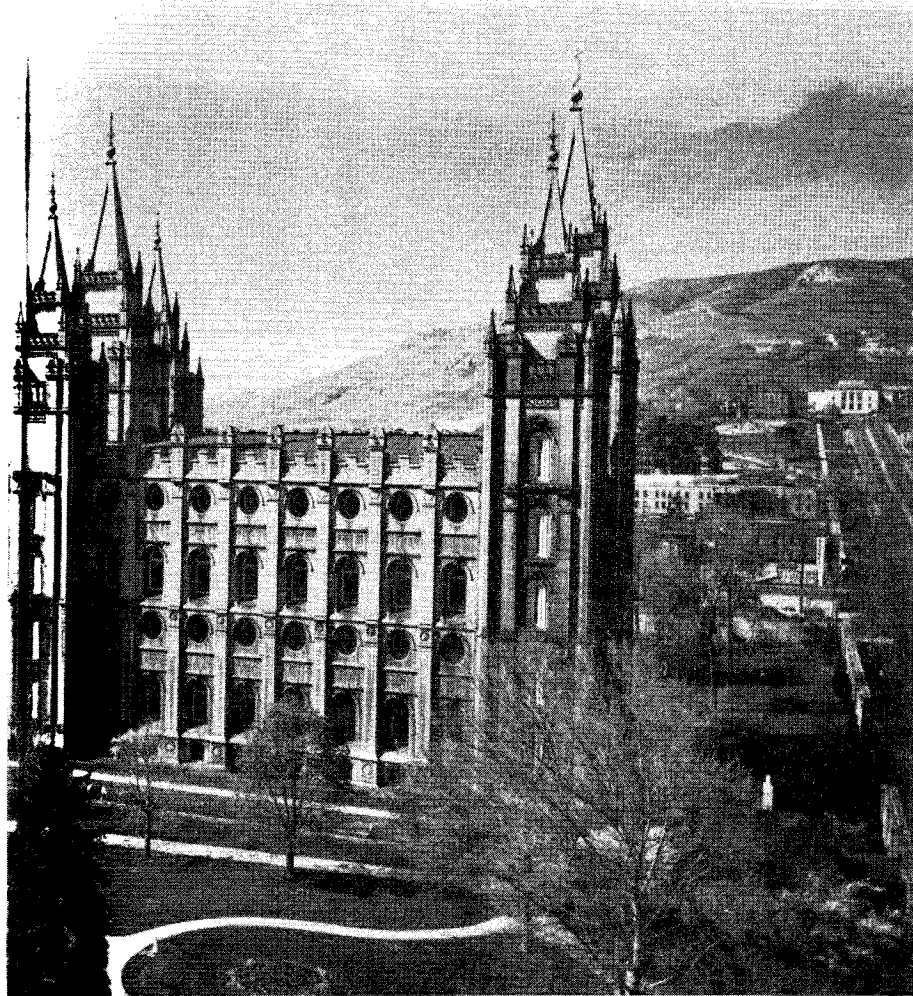
あなたも宣教師!!

回復された神の教会を

より雄弁に紹介するために

モルモン教の繪入説明

モルモン物語



1,000円

「いと高き
ところでは
神に栄光が
あるように
地の上では
み心になう
人々に
平和が
あるように」



目次 聖徒の道 12月号

予言者のことば

キリスト誕生（ルカ伝）
に含まれる人生哲学 2

伝道部長会メッセージ

予言者ジョセフ・スミス 6

系図のページ 7

証詞

専任宣教師に召されて 12

建築宣教師に召されて 15

地方部宣教師に召されて 16

現在のホームティーチングについて 19

日曜学校Aコースレッスン 20

MIAリーダー 28

扶助協会レッスン 31

△予言者のことば▽

キリスト誕生（ルカ伝）に含まれる 人生哲学

デビッド・O・マッケイ大管長



我らここにて未だ天父を見ず
されど我ら御子を知る
そは世の始めより最も美しき
人間の型なり
我敬虔の筆もて、神の御業を
つづめ記さん。
人々を生かさんと神の送りし
御子は偉大なるかな

彼を通し、我らは神の道を学ぶ
そして天父の愛を知る
我らをとらえ、上帝なる神の許へ
凱旋せしめたるは御子なり
神はその尊厳を現さんと
自ら降り給わず
神はこの地に置き給うた
キリストを通じ、我らの礼拝を求む

イエスに逢ったことはなかったけれども、彼の生涯を学んで最も熱心な弟子となった一人の男によって、昔の町ベツレヘムに生れた子供の話が記されました。彼はその話を次のようにつづりました。

さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照らしたので、彼らは非常に恐れた。

御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える

きようダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

あなたがたは、幼な子が布にくるまつて飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである。

するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った。

「いと高きところでは、神に栄光があるように、

地のの上では、み心にかなう人々に平和があるように」

（ルカによる福音書二・八―一四）

一九二一年十一月二日、ヒューストン・キヤノン兄弟と私はフォート・ワースに乗り、エルサレムからベツレヘムに行きました。私たちが道を進んで行ったとき、ラ

ケルの墓を通過しました。私たちは車を止めて、碑文を読みました。更に少し行きますと、私たちは一人の男が羊の群を導いているのを見ました。私たちの運転手が警笛をならすと羊飼は急いで道の側によけると羊は、彼に従いました。私たちも通過するとき、羊は羊飼のまわりに立っておりまして。彼はきつと何か甘いものを羊に与えていたのでしょうか。私はそれが何であるかわかりませんが、私にとってそれは次の聖句のよい説明になりました。……羊はその声を知っているの、彼について行くのである。ほかの人には、ついて行かないで逃げ去る。羊が牧者に従うよい模範でありました。

間もなく私たちは広い野原に出ました。ベツレヘムの町の遙か左の方であったと思ひました。私はこの町で起つたことに就て少し書きたいと思ひます。

ああ ベツレヘムよ

聖典中で最も親しみのある話、それは二分足らずで繰返すことができますが、生活科学、全人生哲学を含んでおります。場所はエルサレムに次ぐ歴史的な所、パレスタインの町ベツレヘムであります。それは聖書上に多くの重要な事件のあつた所であります。それが聖書の中で最初に出て来るのは、ラケルの死に係りしてであります。その墓はキリストの生れる千七百年以前でありました。それはボ

アズとナオミの故郷で、美しいルツの話が完成された所です。キリストの生れる、約千百年ほど以前、ベツレヘムはダビデ家の郷里であつたと記されております。

予言者が羊を飼っているダビデを見出して、この小さな羊飼の少年をユダヤとイスラエルの支配者となすべく油を注いだのはベツレヘムでありました。

その後暫らくして私たちはペリシテ人の守備隊がベツレヘムに入つたのを聞きます。ダビデの郷土は敵に占領されたのであります。この町が彼の心にかか、いとしいものであつたかは彼がベツレヘムの井戸の水を飲みたがつたことに示されていると思ひます。その古井戸で彼はよくその渴をいやしたのであります。彼が彼の出生地を占領している敵に直面して立つた時、三人の兵卒が將軍の望みを聞いてペリシテ人の兵列を突破して、彼らの將軍のために水を汲みとつて来たのでした。それはダビデかその従卒たちに慕われていた、忠誠奉公の心を打たれる一幕であります。

最も美しい話

ミカ書五章にベツレヘムは予言者によつて救主の出生地として指摘されております。私はキリスト降誕の最初の啓示を与えられた、羊飼たちが夜羊の群を見守つていたときに、もしかするとこの予言の言葉を心にとめていたのではなからう

かと思ひます。神の啓示は、人がよく準備し、それにふさわしい生活をしていなければもたらされないものであります。

悪の力が人間にのしかかつて来ても、神は求められるものであります。悪は常に試みようとしております。神は私たちに探求するように望んでおられます。……探せ。そうすれば見いだすであらう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであらう。

(マタイによる福音書七・七)

私たちはたたき、求めなければなりません。そして私が思いますにこのけんそんな羊飼たちはその心に、すべてのユダヤ人たちがいだいていたと同様の、救主がすぐ訪れるであらうという望みをいだいていたにそういふことでしよう。とにかくこのけんそんな人々は神の示現にその心を開いていたのでした。

前述しましたように、救主降誕についてのルカの話は最も美しい物語であります。

私は今この物語にあまり関係づけられていない節を引用してみたいと思ひます。御使たちが彼らを離れて天に帰つたとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行つて、主がお知らせ下さつたその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合つた。(ルカによる福音書二・一五)

羊飼たちは、これは真実であらうか、ともまた、このことが真実であるかどうか

か見に行こう、とも申しませんでした。彼らは「さあ……行つて主がお知らせ下さったその出来事を見てみようではないか」と言つたことに注目しなければならぬ。神がその御子を遣されたこと、天使が世にメッセージを与えたこと、主は王の王となり主の主となるべきことの確信は、貧しい小さなユダヤの町の単なる赤児として来たのでした。

このような確信を持つていないかも知れないあなたがその心に、キリストが生まれ、キリストが生きたのを見、神が天使によつてキリストの降誕とまた再臨を告げたのを聞いたと同じ確信を持つことに、何を惜しむでありましょうか？

すべての疑いは去り、私たちの生涯の目的についてのすべての憂いは止むでありましょう。これがそのような証の意味するものであります。私たちはただ、さあ……行つて主がお知らせ下さったその出来事を見てみようではないか」と言うことさえできればよいのです。

クリスマス精神

世の救主、イエス・キリストは神性なお方であるという啓示は素晴らしいことであります。それは全世界で最も崇高なものではないでしょうか？ これによつて今私たちが祝っているクリスマスは神性な重要さを持つているという確信がもたらされるのです。それが彼の降誕の季節でないということが問題となるでし

うか？ パレスチナに於ける羊飼は四月から八月までに羊を放牧するので、それは十二月でないことを物語は告げておりますけれどもそれがどんな問題となるのでしょうか？ 要はクリスマス精神であります。それは私たちが主の兄弟であると感じ、彼の許に戻るような生活をし、羊飼と同様に王の王、主の主のみそばに行けるようになることであります。私たちはキリストから遠ざかるような生活をしたくありません。

私たちは羊飼いが天使のメッセージを受けたときに持ったと同様の確信を伴つたクリスマス精神を持ちましょう。そしてその精神を持つて主の許に行きましよう。そこに生命があるのです。私たちは神とキリストを見出し、知らない限り永遠の生命を持つことはできないのであります。何となれば、永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、またあなたがつかわされたイエス・キリストを知ることです。（ヨハネによる福音書一七・三）からであります。

私はこの救主出世の甘い物語は人生哲学を含んでいると述べましたが神を知り神に栄光を与えることは人類家族の間の救いと平和の一つの条件であります。

大きな質問

この単純な小さな物語の中に平安が約束されておりますが大きな質問は、私たちは天使が嫌い、また羊飼たちが貧弱な

石灰石の洞窟の中の飼葉おけに横えられているイエスに見出した平安を、何時得られるかということでありま。私はある人々が、私たちは平和を欲しない、と言ふのを聞いたことがあります、なぜ平和を欲しないのでしょうか？ それは人にもたらされる大いなる祝福であります。それは無気力でも不活発でもなく平安なのであります。即ちキリストが復活したとき、その心にいだいていたものであります。彼は十二人の弟子たちに現れて言いました「やすかれ（平安があなたにあるように）」このような平安は決して策略や口論で克ち得られるものではありません。私たちは恥辱および圧迫と腐敗の罪に打ち克つたときにだけ平安が得られるのです。「道義の勝利なくしてあなたにこの平安はもたらされない」とエマソンは言っております。

道義の勝利はまた平和の六つの敵に対する勝利であります。その名を挙げれば貪欲、肉欲、野望、妬嫉、怒り、高慢、この六つは悪魔が試しの山で救主にいろいろな形で提供したところのものであります。

ふきほんぼうな感情、治められない貪欲、嫉み、憎悪、人を支配し抑圧する富および権力、これらは平安の敵であります。それらは各人にみじめさをもたらすものであります。また家庭に不幸をもたらすものであります。それらは世の中に戦争と、紛争と不平と、みじめさと死を

もたらずものであります。それらはキリストがこの世に与えるために来られた平安と対立するものであります。なぜ人々はその心からこれらのものを取り除き、貪欲を克服し、取るよりも与えるように誠実に努めることができないのでしょうか。それが人生であり真実な生き方なのであります。

回 答

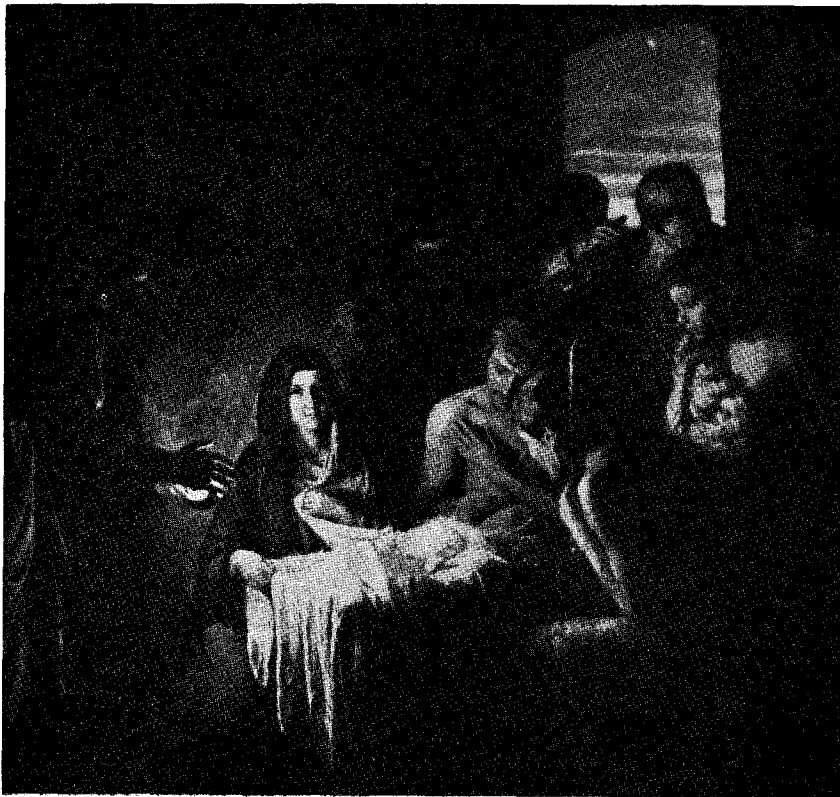
道義が悪に勝つことによつてのみ、世界はキリストが世に与えるために来た平安を持つことができるのであります。私が挙げたこの六つの欲情を育成する限り決して平安は得られないのであります。どうしてクリスチャンの世界でこれが理解されないのでしょうか？

人は人類の幸福と向上に役立たせない限り、その得たものをもつて平安を得ることは出来ないであります。ただ私たちの隣人に奉仕することによつてのみ、キリストがこの世にもたらした平安を得ることが出来るのであります。主の栄光と主のみ業は人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすことであります。

私はこのクリスマスを兄弟姉妹たちと共に、神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネによる福音書三・一六)ことに喜ぶものであります。この靈感の下に主は人々が福音

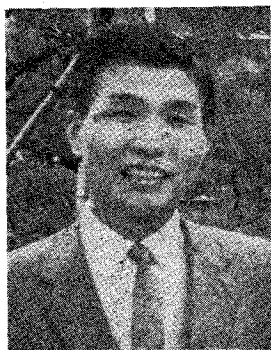
に従うことによつて平安を得るように主の教会を設立されたのであります。ここに、これ以外の道はないのです。人々は何処に於ても平和を追い求めております。けれども彼らは福音の原則を適用する限度に於てそれを達成しているのでは

あります。キリストの福音は真実の人生の哲学であります。それは生活の科学であり、そしてその本質は二千年前に天使によつて先がけて伝達されたものであります。



伝道部長会メッセージ

予言者ジョセフ・スミス



渡辺 驥

(第一副伝道部長)

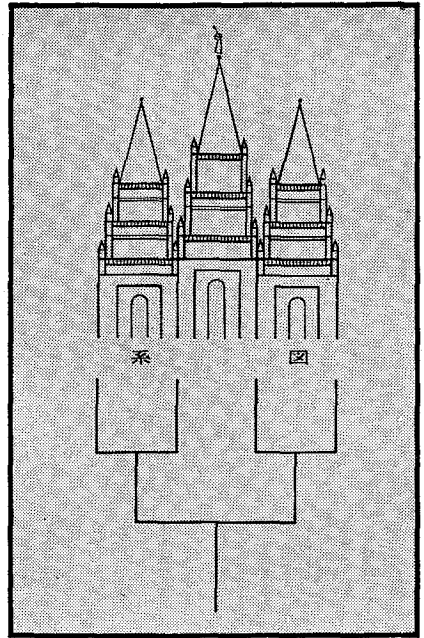
あるときのこと、ロシアの一歴史家がアメリカを訪問し、一年有余に亘って合衆国の偉人と云われている人たちや、憲法についてつぶさに調べ、帰国の途につきました。まさに乗船しようとしていたこの学者のもとへ一団の新聞記者がやってきて、その中の一人が次のような質問を投げかけました。「過ぎし一年の間、あなたはアメリカの偉人について研究をなさったそうですが、その中で誰が最も偉大であるとお思になりますか」と。

ルモンの予言者、ジョセフ・スミスである」と。確かにその通りであります。更にアメリカの有名な一人であるジョサイヤ・クインシーはジョセフ・スミスが殉教するじき前にジョセフと知合になった人であるが、スミスの殉教後次のように記している。「まだ生れていないこれからの時代の者が使う将来のある教科書に、次のような質問が載りそうもないとは決して云えない。すなわち、十九世紀に於ける如何なる歴史上のアメリカ人がアメリカ国民の運命に最も強い影響をおよぼしているか。而して、この質問に対する答が次のように書かれるかも知れぬということはけっこうあり得ることである。それはすなわちルモンの予言者ジョセフ・スミスである、と。この答えは

今生きている大いの人々にとっては疑いもなく笑止に思えるが、その人々の子孫にとっては明瞭な日常茶飯事になるかも知れない。……この自由に討論のできる時代に一つの宗教を確立し、しかも過去に於ても現在に於ても何十万という人々からいと高き神から遣わされた直接の使であると思ぜられてこの人、すなわちこのように非常に優れた人間はその記憶をつまらぬいあだ名を浴びせてすまして置けるべき人ではない。……今日アメリカ人が質問し合っている最も重要な問は、この人に関するものであり、またこの人がわれわれに残したことでなくてはならない。……それらは熱心な問であって、私がノーヴーで訪問したあの不屈な自己主張者にアメリカ史上傑出した地位を与えるにちがいない……」と。また教義と聖約の第百三十五章の三節には、「主の予言者にして聖見者なるジョセフ・スミスは、ただイエス・キリストを除くのほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽したり……」と。十二月を迎えて、私たちは本当に恵まれていると思います。何故ならばこの二十三日には末日の神権時代に主の教会を回復された予言者ジョセフ・スミスの誕生を寿ぐことができ、続いて救主の降誕をお祝いできるからであります。私たちはこのよき月にもう一度よくジョセフ・スミスの働きについて神に感謝すると共に、予言者が回復して

下さった救主イエス・キリストの完全な福音を感謝しようではありませんか。そしてその福音に真実生きることによって、「地には平和、人に善意」をあらわすもたらそうではありませんか。





アブラハムの書

渡部正雄

一八二八年、エジプトを旅行していたフランス人、アントニオ・セボロは、この国の地下納骨堂に興味を持ち、フランス領事、シビエリヤ・ドロビエティの保護下にあるエジプトの総督メヘメット・アリに、有名なテーベ市付近の納骨堂発掘許可を申請しました。セボロは一人一日六セントで四百三十三人のエジプトおよびトルコの兵士たちを使って四カ月と二日かかって、一八三一年六月七日に十分に大きな納骨堂を開くことに成功しました。そこには数百のミイラがあり約百体は第一級に香詰めにしてあり、床の間に置かれ、二、三百体は二級あるいは三級に香

詰めにして、直接床の上または空所に置かれてありました。第一級の香詰めは費用も高く、主としてエジプトの皇族または貴族に限られておりました。第二級は費用も大分低く割合に多数の人に施されておりました。第三級はほとんど無費用でした。セボロが発見した内で第一級の十一のミイラを除いてはほとんどくずれるので動かさない状態にありました。セボロは宝として求めていた十一体をフランスに船便で発送しました。彼はアレキサンドリヤからパリへの途中重病にかかりドリエツテに留まらざるを得なくなり、そのミイラをアイルランドに住んでいたはずの甥ミカエル・H・チャンドラーに譲ると遺言して十日後に死にまし

た。チャンドラーはすでにアメリカに渡っていましたのでそのミイラはロンドンからさらにニューヨークに回送され、一八三三年の早春チャンドラーはその十一のミイラを受取りました。その四体の棺はエジプト王のパロ家のものであり二体は女で、ナイル河でモーセを引き上げたパロの娘のものでありました。チャンドラーはこれらの棺を開けるときにダイヤモンドその他の宝が出て来るものと期待しておりましたが、出て来たのは二巻のパピルスでその他の棺から小さな二、三のパピルスが出て来ただけでした。この二巻がアブラハムの書とヨセフの書でチャンドラーはボストン始め各地にミイラを展示しながら、前述二書の古代エジプト文字を読める学者を求めていたのですが、ジョセフ・スミスが変体古代エジプト文字で書かれた金版を訳しているという噂を聞いて一八三五年の七月三日にカートランドに着きました。

ジョセフ・スミスはチャンドラーが提示したパピルスの一部を訳しチャンドラーはそれを見て、それまでに学者が少し訳したのと一致しており間違いないことを証明しました。教会は多額の金を出して前記四体のミイラと二巻のパピルスを買いしました。予言者ジョセフ・スミスはこれを翻訳して一八四二年三月のタイムス・アンド・シーズンズおよび一八四二年七月および八月のミレニアル・スターに始めて印刷されたのであります。

これらのパピルスの巻物とミイラはジョセフ・スミスが殉教したときに、ノーヴーの彼の家にありある間、エマおよび予言者の母の手許にありましたがノーヴーにおける一八四五年一月三十一日付のアルモン・W・バビットのブリガム・ヤング大管長に宛てた手紙にウィリヤム・スミスが予言者の母から取って、引渡しを拒んでいると書かれてあります。その後の成り行きについてスペリー博士は次のように述べております。

その後それはセント・ルイスの博物館に送られさらにシカゴの博物館に送られたが、知られるところではそのミイラもパピルスも一八七一年のシカゴ市の大火で焼けてしまったのである。

教会において私たちは高価なる真珠のアブラハム書の原書、古代象形エジプト文字のパピルスはシカゴの大火で焼失したのもと思っていました。最近これがニューヨークの博物館から教会に寄贈され、現在ブリガム・ヤング大学のニブリー博士が調査しておられることがチャーチ・ニュースに発表されましたのでここに訳して掲載いたします。

「教会は、パピルスを研究するよう、ブリガム・ヤング大学に渡す」

會て末日聖徒イエス・キリスト教会の創始者、予言者ジョセフ・スミスに所屬

していたパピルスがヒュー・ニブリー教授による高価なる真珠の研究に使はれるために先ずブリガム・ヤング大学に送られると大管長会N・エルドン・タナー副管長によって召集された記者会見で木曜日に発表されました。

博物館より寄贈

ジョセフ・スミスが複写一号と呼んでアブラハムの書と共に高価なる真珠に出版した写本の原本であることを証明する原稿を含むパピルスが最近ニューヨーク市のメトロポリタン芸術博物館から教会に提供されました。パピルスと共に一九四六年五月二十六日付の予言者の未亡人エマ・スミス・ビダモンの所有を現す、署名入りの書がありました。

長い間転々とした後それらは一九四七年にメトロポリタンに到着し、最近ユタ大学近東部長アジズ・S・アチャ博士により発見され、彼のあつせんによって教会に戻ったのであります。

注意深い研究

タナー副管長は、全部で十一番まで番号のつてある諸パピルスは注意深く研究されて将来いかなる情報もたらされても周知されるようになっていっていると言われました。

ニブリー博士は来年一月号から、イムブループメント・エラに、高価なる真珠の新観察と題する記事を連載すること

になっております。

タナー副管長は、ニブリー博士はこの仕事を教年前から始めておりその記事を連載するときに当り、ちょうどときを同じくして、パピルスが教会に戻ったのであると説明しております。

BYU大学での研究が終つてから、未だにジョセフ・スミス自身の手によつて台紙に張られた、こわれやすい書類は、教会図書館に保存されるであろうとタナー副管長は言いました。

なおアブラハム書と共に在ったヨセフの書の原本について今回の発表には何ら言及されておりませんが、今まで世界は死海の書の発見によつて、やつとBCに遡る原本を発見したことに一大センセーションを起していたのですが、アブラハム書の原本を教会が保存することにより世界は一躍して紀元前四千年の原本を持つ劃期的な時期に入ったのであります。誠に恐るべき主の日の門口に迫った感じがします。

ヨセフの書はジョセフ・スミスの翻訳が完成されず、出版もされませんでした。が、アブラハム書の翻訳のときにもオリヴァ・カウドリはW・W・ヘルプスと共に筆記を手伝ったのであります。オリヴァ・カウドリはヨセフの書について素晴らしい靈感された書であつたことをまたその象形文学は実にめざましく、創造の歴史人間の墮落、神性、天上の戦などについて

てのあざやかな理解を与える素晴らしい書であると日記に記しております。

尚御参考までにアブラハム書並にヨセフの書に記されていた古代エジプトの象形文字およびその変形、並にモルモン經金版に記されていた変体エジプト文字の図を左に掲げます。尚これらの図は古代のパピルスおよび石などに記されていた原本を複写したものでBYU教授シドニー・B・スペリー博士の好意により、ミルトン・R・ハンター兄弟が高価なる真珠註解編纂に當つて借用掲載したものの写であります。

図一

PLATE I (プレート一、金属などの板)

The Hieroglyphic (ハイエログリフィック象形文字)

およそ紀元前三千年頃エジプト人たちは読み書きを知つておりました。彼らは象形文字として知られる絵文字を用いておりました。このハイエログリフィックという言葉はギリシャ語でhieros(神聖な)刻文、刻まれた。(ギリシャ語でhieros)という意味であります。古代のエジプト人はこの象形文字を、二つの主な目的のために用いました。第一は事件および聖なる教えを記録することであり、第二は彼らの神殿および公共の記念碑などの装飾であります。ですからこれ

らの人々は彼らの神殿、墓、公共建築物記念碑などの石面に数百数千の絵または象形文字を刻みまたは描きました。ある場合にそれらはパピルスに記され、今日の考古学者たちの探求の眼に見出されるように、エジプトの砂の中に埋められ保存されて来たのであります。

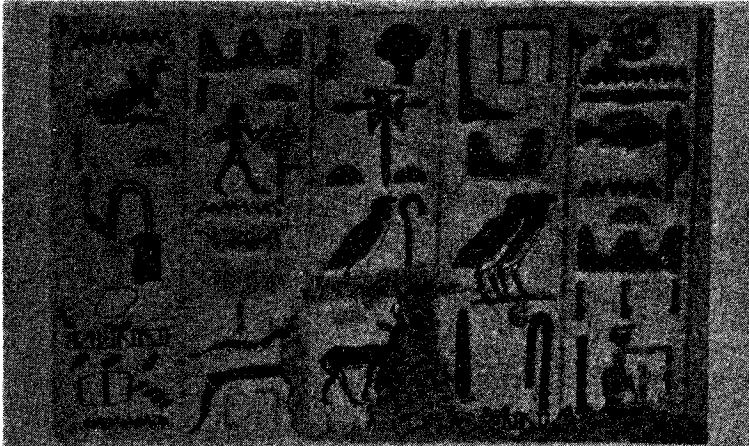
この種の言葉を書くには当然、長い時日を必要とし、また読むことは極めて困難であつたので、時日の経過と共にエジプト人たちの生活の内に、もっと簡単に集約化されたタイプの書き方が必要になつて来たのであります。

図二

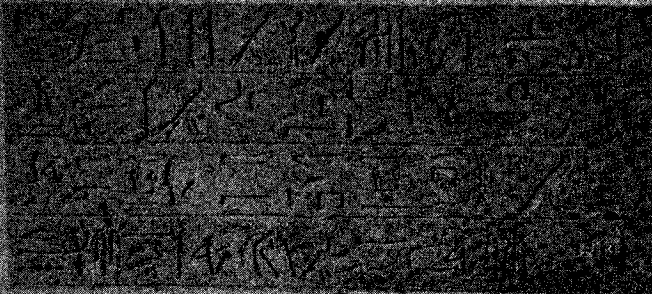
PLATE II (プレート二)

The Hieratic (ハイエラティック)

象形文字からだんだんとこの新しい型の書き方が発展して来たのであります。これはハイエラティックとして私たちに知られ、その名は、ギリシャローマ時代(BC一〇〇)にエジプトの祭司たち(ギリシャ語 hieratides "priests")に広く用いられていたことからたらされたものであります。ハイエラティックは、エジプト象形文字の速記体でありますから商業上の目的に用いるために秀れておりました。これはまたエジプトの祭司たちによつて宗教的な記録として、パピルス上に書くのに広く用いられておりました。



ELABORATE PAINTED HIEROGLYPHS FROM A THEBAN TOMB



HIEROGLYPHS INCISED UPON A LIMESTONE STELA

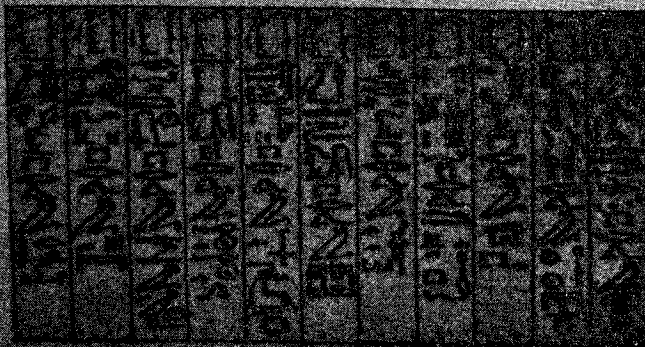
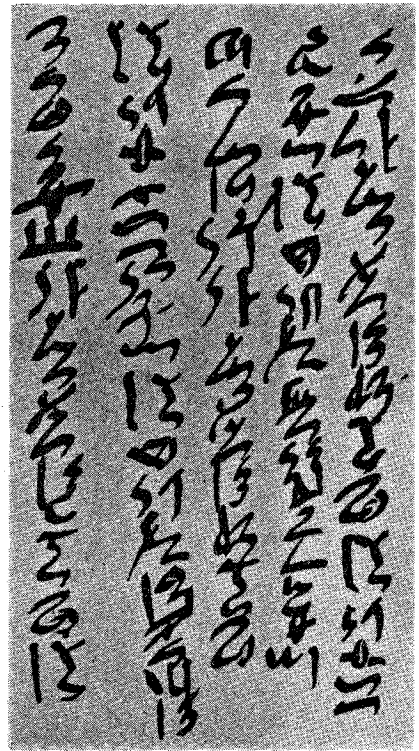


図 2



図三

PLATE III (フレイト 三)
The Demotic (デモティック)

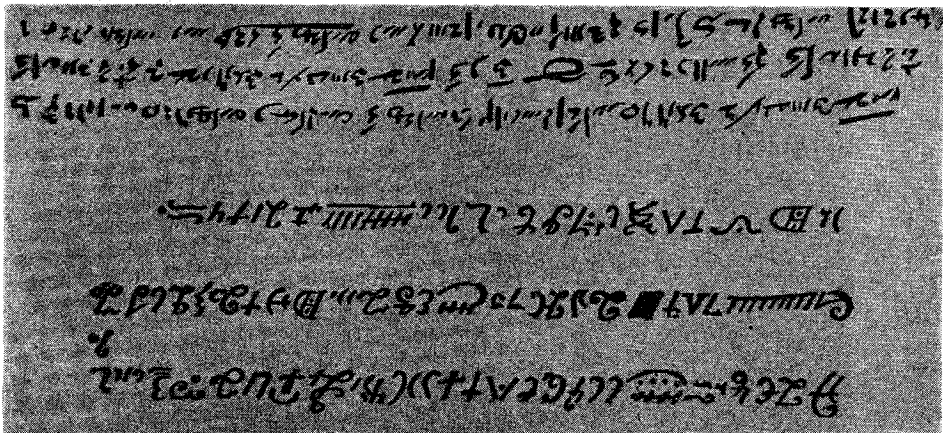
字を知っていたでありましょう。デモティックそれ自体エジプト変体文字の一種であります。

エジプト語の進展した第三番目の字体はデモティック(ギリシヤ語 demotikos “popular”)であります。

スペリー博士によると、

これはハイエラティックを更に簡略迅速化したものでおよそBC七〇〇年からAD四七〇年の間に普通日常生活に用いられたものでありますがときとして石に刻まれたものも発見されます。この日付よりして、もしもリーハイおよびニーフアイがエジプト語を知っていたとしたら彼らは恐らくこの簡略化したエジプト文

図 3



下三行のデモティックをモルモン經金版(上)
の文字と比較しなさい

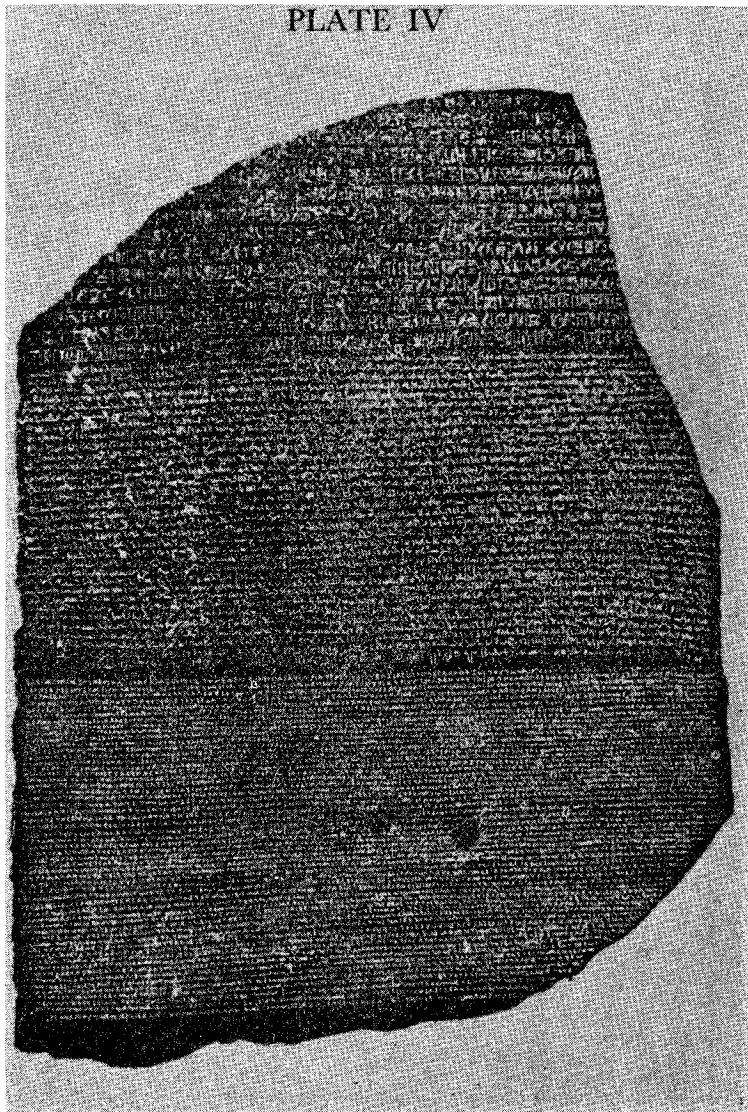
図四

PLATE IV (プレート 四)

The Rosetta Stone (ロゼッタの石)

これはナポレオンの軍隊がエジプトに侵入したとき、フランスの一兵卒がロゼッタと呼ばれる要塞で発見したもので、この大きな黒い石は三部に分れてハイエログリフィックとデモティックとギリシヤ語の三刻文があり、ギリシヤ語、ヘブライ語、アラビヤ語に通じていたフランスの学者シャンポリオンが一八一八年に研究を始め六年間かかって一八二四年に始めて、この二千年近く死んだ文字として人類に知られていなかった古代エジプト文字をギリシヤ語から解訳したのであります。更にドイツの学者リチャード・レプシヤスが研究を続行して一八三七年にシャンポリオンの解訳の正しいことを証明したのであります。一頁の古代エジプト文字を解訳するのに学者たちが力を合せて約二十年かかったものを予言者ジョセフ・スミスが、わずか九十日で五百頁に印刷された金版からの古代エジプト文字を神の助けによって翻訳されたことを比べることは興味ある証であります。

図 4



証詞



△専任宣教師▽

鷹野 照子

心から愛するモルモン兄弟姉妹今日は、私は今名古屋支部で伝道出来ますことを、心から感謝しております。宣教師として召されて早くも五カ月となりましたが、本当に福音は私たちの生活の源であることを心から証することが出来ます。そして唯一真の教会は唯一つの教会であること、私たちの四大聖典は真に神の言葉が書れてあり、私たちの生活には絶対必要なものであることを心から証します。……

今から四年少し前の、母の日、に友だちにつれられて甲府市の真中ぐらいいのところにある小さな教会の玄関に入ったとたん、私の前に何か大きな人が立っておりニコニコと親し気に、いらっしゃい私はブラウン長老です。よく来ましたネ、と流調な日本語、本当にびっくりしました。そして何が何なのかわからぬまま会に出席し、私の心を取ったのは一人の若い姉妹の開会の祈りでした。彼女は本当に謙遜に、へりくだり、神様を心から愛

し祈ってました。その言葉は本当に私の高慢な心にショックを与えました。私の父は神道の指導者でしたし、母から良く小さいときに日本の神話について聞かされて生活して来ましたが、このとき程、神様を近くに感じたときはありませんでした。今は本当に私を教会に紹介して下さいました姉妹に感謝しています。彼女は私が家庭集会を受けている間中いつも私と一緒にいて助けて下さいました。今宣教師となつてつくづくと会員のフェロシップがどんなに求道者に助けを与えている



か良く知ることができ、本当に自分の求道者のときのことを考えて感謝でいっぱいです。伝道している沢山の人々と話す機会があり本当に多くの経験と祝福と導びきを受けます。求道者と共にレッスンしているときに、大きな福音の力を学びます。なかなか教えを受け入れなかった人が本当に最後には謙遜に神様を証している姿を見ると決って私たちが

の力ではない神様の大きな力を身近に感じます。歩いて歩いて足を棒にして戸別訪問し、どうぞお入り下さい、と言われて入り良く話していると、本当に真理を求めている人々に逢うときの喜びは棒になった足の疲れを良く心からいやして下さいます。本当に小さな力でも福音を人々に分ち与えるときの喜びと祝福は、素晴らしい経験です。

かつて大管長はこのように言われました。小さなことを完全になさい。皆私たちの回りのものは小さなものからできてます。それが集まって大きな完全な形ができます。人の体にしても、光にしても総てそうです。小さなものが完全でないと大きなものは完全なものとしてできません。本当に私たちは福音の小さなことから実行して行きたいと思っています。

福音は使えば使う程、私たちの心に喜びと祝福を与えてくださる、神様の大きな贈物であることを心から証詞します。神様は確かに生きていらっしゃり私たちが正しいものを求めるとき必ず与えて下さることを証します。私はこの末日に骨肉を受け、またこのように回復された真の教えを述べ伝える機会がありますことを心から感謝しております。また私たちに素晴らしい指導者がありますこと、神様の権能を正しく使うことのできる神権者がありますことを感謝しています。

最後に、あなたがたはこの世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにする

ことによって、造りかえられ、何が御旨であるか、何が善であつて、神に喜ばれかつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。すべてに感謝し、すべてイエス・キリストの御名により証詞致します。

(現在広島支部で伝道中)

雨宮郁子



兄弟姉妹そして求道者の皆様こんにちは、今私は東北一の都、また森の都といわれています仙台で宣教師として働くことのできます機会を心より感謝しています。

私は、末日聖徒イエス・キリスト教会は、この地上にある唯一の真のイエス・キリストの教会であり、ジョセフ・スミスにより、神権、また教会が回復されたものでありますことをはっきり知ることができます。そして、それは宣教師から、また親から「信じなさい」と言われ

てそのまま信じる信仰ではなく、今の私は誰にどんなことを言われようと、この末日聖徒イエス・キリスト教会は唯一の真のイエス・キリストの教会であると声を大きくして言うことができ、それに喜びを感じています。

教義と聖約十五章六節に「さて見よ、われ今汝に告ぐ、すなわち汝にとりてもつとも価値あることは、汝今の代の人々に悔改めを宣べて人々をわれに導き、もつて彼らと共に父の御国に休まんとことなり」また「汝ら今の代の人々に向いて、悔改めのほか何事をも語るべからず。わが誠命を守りまたわが誠命に従いてわが業を起すを助けよ。さらば汝ら幸福なり」と六章九節で言っております。このように主の定められた方法により、主の御国建設のため私が働くことのできるものは本当に大きな祝福であります。

神様は私たちに一つの自由を与えて下さいました。それは自由意志です。この自由意志は私たち末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって一番大切なものであり、また神から与えられているもので一番尊いものです。それは私たちは、自由意志をいろいろな面で使いますが、神の助けにより、もつとも重要で、もつとも価値あることに使うことができるからです。

神は、すべての人に自由意志を与えて下さいました。しかし、多くの人はその自由意志をどのように使ったら良いかと

いう判断に恵まれる機会がありません。ですが、私たち教会の会員には、その機会に恵まれ、それをどのように正しく使うかという機会が与えられましたことに心より感謝しています。

また、私たちには数々の聖典、書物が与えられています。私はそのような聖典、書物を読むとき、私たちの人生の道を示してくださり、本当に神の御言葉が書かれていますことがはっきりわかります。

教義と聖約三十三章の中に「誠にまことにわれ汝に告ぐ、煙は早白くして刈り入れを待てり。これをもつて、煙に汝の鎌を入れ、勢力を尽し、体力を尽し刈り入れをなせ。」(七節)また「誠に汝ら口を開きてあらん限り説け。さらば汝らの背には刈り束を増し加えられん。見よ、われ汝らと共に在ればなり。誠に汝ら口を開け、さらば満さることを得ん。曰く「悔い改めよ、悔い改めよ。主の道を備え、その道筋を直くせよ。天国は近づきたればなり。誠に汝ら皆悔い改め、汝らの罪を赦されんためにことごとくバプテスマを受けよ。しかし、汝ら正に水のバプテスマを受けなば、火と聖霊のバプテスマ次いで至らん」と。見よ、誠にまことにわれ汝らに告ぐ、これすなわちわが福音なり。而してわれを信仰すべし、もしわれを信仰せずば決して救われる能わざるを憶えよ。」(九節、十二節)

私たちが本当に心をつくし、思いをつくして主の道を行なうならば多くの祝福

を得ると書かれています。

私は宣教師に召されてからいろいろな経験をいたしました。それは、私の今までの信仰生活の中で味わうことのできなかった満足感、また、神の祝福であります。求道者と共に家庭集会をしているとき、求道者は私たちの予想もしない数々の質問をします。そのようなとき、私たちは自分の頭にその答が必ず浮んできます。これは確かに聖霊の導きによるものであると感ずることが出来ます。このように満された集会の後、私たちは本当に神に守られているということを深く感じます。

私は、いろいろな経験を通し、私たちが神の仕事をするとき、聖霊の導きが実際にあるということを証したいします。また、本当に私の力は弱いですが、まだこの真の福音を知らない多くの人に神の教義を教えることができますのを感謝し、私に与えられた期間の一日一日を大切にし、一人でも多くの人に語りかけたいと思います。

(仙台支部で伝道中)

大川 治子



愛する兄弟姉妹こんにちわ、恵まれまして今伝道することが出来ますことを、心から感謝しております。私が伝道に出たいと思いはじめたのは、今からだいたい一年半ぐらい前のことです。そのときから伝道に出るために、計画的にお金を貯めるように準備をしました。しかし伝道に出たいと思いつながらその反面、結婚についても考えておりました。家族からは強く結婚をすすめられ、伝道と結婚、どちらが今の私にあたえられたものなのか、迷ってしまいました。私はどちらにすべきか祈りました。毎日祈るうちに、私の心の中に、伝道に出るべきである、という気持ちがだんだん強くなり、去年の十二月頃伝道に出ることを決心しました。このようにして目的が決まりましたので、伝道の準備をはじめました。まず母に、自分の計画を話した所、自分のや

りたいことならやりなさい、と心よく許して下さいましたので、支部長さんにお話ししました。しかしそのとき、私に返ってきた答えは、今、伝道に出たいと希望している姉妹が十名以上もいますので、出ることは出来ないとのことでした。それを聞いて私は本当にがっかりしてしまいました。何故なら私は四月頃伝道に出ようと思ひ、保育園のつとめもやめていたのです。ですからまた新しい仕事をさがさなければなりませんでした。私は伝道に出られないといわれながらも、心のすみでは、もしかしたら伝道に出られるかも知れないという希望をもっておりました。そして祈ることによつてますます、伝道に出られる、という確信が強くなってきました。しかし確信は強くなってゆくのですが伝道に出られるということもなく、五月になってしまいました。もう二ヶ月も遊んでしまいましたので、働くことに決心し、つとめ口を探しはじめました。そんなときでも、もし伝道に、急に出られるようになったらとすぐやめることのできるデパートのパートタイムの仕事を見つけました。こうして六月もすぎ、七月四日突然に支部長さんからの面接を受けました。もうその頃は伝道に出られることを多少あきらめておりましたので、まさかその話が伝道についてであるとは思いませんでした。そのときのよろこびは筆に尽しがたものでした。しかしそれから二週間し

て地方部長さんと面接がありました。そのとき、伝道部長さんと面接してから早くても六ヶ月ぐらいしなければ、召しがない、といわれ、あと六ヶ月もまたなければならぬのかと思うとがっかりしてしまいました。それにそのとき、いつ伝道部長さんと話があるかわかりませんでした。ですから一週間もしないうちに伝道本部にくるようにいわれたときは自分は神の業に召されるにふさわしい者であるかと期待と不安な気持ちで一ぱいでした。面接の最後に「召しの手紙は大管長さんから直接あなたの所にいきますから、その時連絡して下さい」といわれた日から、仕事から帰ると毎日ポストの中をのぞきこみました。毎日、今日か今日かと胸をはずませておりましたので、三週間もすぎた頃には、待つことにくたがれてすこし自信をなくしてしまいました。いつものようにデパートに行つた所、電話といわれ、朝から誰れかしらと思いつながら受話器を手にとると、支部長さんからのことずけて、すぐ伝道本部に電話をしなさいとのことでした。なにかしらと思いつながら電話をすると、伝道部長さんの太い声が聞え、明日八時までに、荷物を持って伝道本部にくるようにといわれました。その時は、まだ大管長からの召しを受けてない由を話したら伝道部長さんは、本部には、その手紙のコピーがとどいているから大丈夫と話して下さいました。そういわれたとき

私は、急に胸がどきどきして、うれしいうやら、怖いやら複雑な気持ちで声も出ませんでした。私はすぐ家に帰り、母にはっきり伝道に召されたことを話しました。母は以前から承知していましたが、やはり衝撃を受けたようです。母は体の具合が悪かったせいかも知れません。次に私は兄に話しましたが、兄からは自分かつてに出て行くならもう家に帰ってこなくともいいと強く反対され、とても悲しい思いになりました。しかし私はどんなに反対されても伝道に出ようと決心しました。私はこのような事情がありましたので、四日程遅れた火曜日に伝道本部へ行きました。その朝、具合の悪い母は、自分が寝ていては、娘が心よく行くことが出来ないと考えたのでしよう。早くから起きて、食事の仕度や、伝道に出るための準備をして下さいました。そういう母をのこして、家を出たときの私は、唯行つてまいります。とだけしか云えませんでした。私はいつも母の温かい愛と見守りに心から感謝しております。母は教会の会員ではありませんが、私を通して神様を知ることが出来るようになると思っています。

今伝道に出てから三ヶ月になり、どうやら宣教師生活にもなれ、麦の食事にもなれました。そのせいか、すこし太ったような気がします。最初の同僚は船越姉妹でした。私は伝道をしたいという気持は強いのですが、戸別訪問をしたときな

ど、自分が何をいつているのか、全然わかりませんでした。ことわられて外に出るとぼっとし、訪問した家が留守なときは、安らぎさえ感じたものです。しかし三ヶ月たった現在、私は訪問する家が留守のとき、本当に残念な気持ちになります。私たちは訪問する家族が福音をきく機会をのがさないようにと、いつも訪問する前に祈ります。私は今同僚に助けられ、また良い求道者に恵まれて、伝道が出来ますことを心より感謝しています。神さまについて何も知らなかった人々が、祈りからはじめ、だんだん強い証詞をつちかい、バプテスマを受ける姿を見るとき、私はこの世で一番幸福な者だと感じます。教義と聖約の中に「さて、わが御父の国にわれの許に導きたる唯一一人のにつきて汝らの悦び大いならば、汝らもし多くの人を導き来たらばその悦びは果して如何ばかりぞや」(十八章一六節)という聖句がありますが、今私はそのことを良く理解することが出来ます。まだ三ヶ月間ですが、本当に多くのことを学びました。そしてジョセフ・スミスが神様とイエス・キリストを「ごらんになったことを、はっきり知ることが出来ました。確かに聖霊は、私たち一人一人を導いて下さいます。私は多くの兄弟、姉妹たちが伝道に出られるように祈っております。この期間は福音をのべ伝えるときでありますが、自分自身をも進歩させる大切な機会です。教義と聖約の中に

「されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後顧うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、そのときわれ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。」(九章八節)

私は自分の経験からその聖句が確かなものであることを証詞します。私は幸にして、これまで二人の同僚に恵まれ、今山里姉妹と伝道出来ますことを感謝しています。私は彼女と当眞兄弟を通して、

建築宣教師

落合勝美



主は実に生きています。私のように罪深い、自惚れの強い、弱い人間をよく導いてくれました。今から八年前の三月、はじめて東京に出て働いていたときノイローゼにかかりました。それはあまりに

結婚がいかにすばらしいかということを感じさせられました。彼らや、他のすばらしい兄弟、姉妹を見るにつけても、今私が人々に宣べ伝えているこの福音は神の言葉であるとはっきり知っています。

私は皆さんの上に神様の豊かな祝福があり、イエス・キリストの贖いにあずかることが出来るようにお祈りしています。この証詞をすべてイエス・キリストの御名を通していたします。アーメン
(現在阿倍野支部で伝道中)

も現実と理想がかけはなれていたからです。一ヶ月くらいそんな状態が続きましたが、そのとき本屋さんで「道は開ける」という本を見つけ、早速買い、読みました。そしてこの本の中に書かれてあることを実行することにより、だんだんと回復していききました。しかし回復すると以前の罪深い人間にもどっていました。

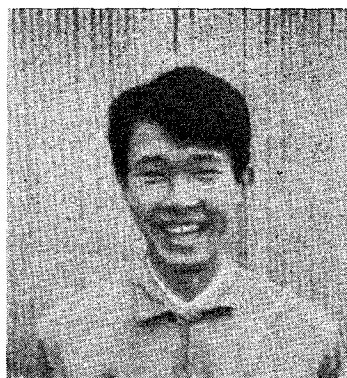
次の試練は吹出物です。体全体が吹出物でいっぱいになりました。こうした状態が一ヶ月続きました。私はこうした病をとうして謙遜さを学びました。

あるとき不幸な人に出会い「道は開ける」と云う本の中に書かれているイエスの話をしました。これがイエス・キリストの教えをもつとよく知ろうとした動機です。そして宣教師さんの配るビラによ

り、モルモンの教会を知り導かれしました。今から四年三ヶ月前に中央支部でバプテスマを受け、活潑に教会活動に参加するようになり、今までの悪い習慣、酒タバコ、茶、その他との戦いがはじまりました。はじめの三ヶ月は非常につらいでしたが、それがすぎるといくらか楽になったようです。MIAでは演劇活動に参加し、それから四ヶ月後には支部長会書記補の責任をいただき、だんだんと進歩することができました。その当時よく指導して下さいました兄弟、姉妹の愛に感謝しています。その頃中央支部にはたくさんの建築宣教師がおりました。私は建築宣教師を見るとき、同じ仲間であることを強く感じました。ちょうどモーセがエジプトの王パロの息子として活躍していたころ、自分の身分が奴隷と同じ身分であることを知り、みずから奴隷と同じ苦しみを味うために奴隷と共に働きました。今の私もそんな気持です。そして長い試練をのりこえて同じ仲間である建築宣教師と共に、主の御業に励むことが出来ますことを感謝しています。ラーセン監督のよき指導と、先輩諸兄のアドバイスなどあり、わずかな働きしかできないですが、少しずつ進歩でき感謝しています。監督がいつも言われる「出来ないことはない……」たしかにそうです。主は御業をなすために弱き人間を選び使います。主は実に生きてまします。イエスはキリストであり、ジョセフ・スミス

は福音を回復するためにつかわされた予言者であることを証いたします。これらのこと全部イエス・キリストの御名により証いたします。アーメン

杉江学



さまざまな社会の荒波の中で働いていられる、またその中で学び常に努力して前進している多くの兄弟姉妹こんにちは、私は証詞を始めて外に出す者です。現在一八才クリスマスにバプテスマを施してもらい、早一年に近づいています。が、建築宣教師に召される以前は、会社に通っていましたが、支部長の面接を受けたときは、すでに建築宣教師になろうという決心をもっていました。ふらついた精神や肉体では進歩はないと考え、この召しは二年後にある不安(生活)をもたないでもなかったのですが、何かを残したい、私を救って下さった神様に対し

て何か奉仕したいと常日頃から考えていました。

それで早速家族に話した所、全員が猛反対という結果でした。その後一ヶ月あまり、ついに了解のサインをもらうことができたそのときの喜びは、一段と心が高鳴り嬉しかったです。今ふりかえってみると話し合いがけんかのようになったりきでも、また私がしよげかえっているときでも、神様は祈りの中で勇氣と忍耐と努力を与えて下さいました。そして変らない愛で家族の者の上にまた、私に力づけて下さいました。恵み深く偉大な父は常に私を見守っておられたのです。日一日と進歩することができるようになた、多くの人々と共に歩むことができるように一つの道をそなえて下さったのです。

私は強い信仰の砦を築きたい、と思い弱い証詞の中であえぎながら生活していた自分よりも一層大きなものををつかみたいと思っています。そうして今私の道に進んでいます、幾人かの人々が力を合せて一つの目的に向っています。教会堂を建てること、人間関係の絆について深く考えて行きたいと望んでいます。私の短い経験の中から、神様は本当に生きていらっしゃる、恵み深き神様は全てを知っている、つしやいます。また驚たんすべき力をもっているつしやいます。父なる神は愛であり愛がある故に、私たちも心を同じくするものが彼の残した跡を歩んでいるのではないでしようか、私は証しいたしま

す。神様は真実生きていらっしゃる。神は偉大であり愛深い方であります。私は幸福です。我々の用いる四大聖典が誠の神の言葉であることを信じ、証しいたします。

日々の生活の中に福音を取り入れることができることを感謝します。現在のデビッド・O・マッケイ大管長はまさしく神から選ばれた予言者であり、つねに聖い啓示を与えられ、我々を導いて下さることを本当に感謝します。末日の初代大管長ジョセフ・スミスは祈りによって父

△ 地方部宣教師 V

関久枝

(東京中央支部)



私は非専任宣教師となる機会を頂けましたことを、心より感謝致しております。バプテスマを受けてより、三年目の一九六五年の八月に、任命されましてより、

なる神とイエス・キリストに会ったことを信じ証詞いたします。これらを更に一層強い砦とするために力を与えて下さったことを、この証詞を神様の恵みによって書くことができましたことを深く感謝しています。全ての兄弟姉妹の上に限りなく祝福と導きがございますように、かたくにならず常に神の御業をたたえることができますことを感謝して全ての証詞を愛するイエス・キリストの御名によりて申し上げます。アーメン

一年間致しました。伝道を始めて、三ヶ月くらい経ったとき、問題が起きてまいりました。それは、私の家には、母がおりませんでしたので、たった一人の女手である、私が家事をしなければならなりません。その上、私は勤めておりましたので、時間を作るのが大変だったのです。時間を最大限に使いまして、ボヤツとしている時間のない程働きましたが、毎日教会に行くのは、とても困難なことでした。そのため、十分に働くことが出来なくて、求道者にも、同僚にも、申し訳なく思っていました。そこで、非専任宣教師の指導者をしていらっしゃる小林兄弟に、辞めさせて下さいと、云いました。すると小林兄弟は、関姉妹よりもっと大変な姉妹がいる、その姉妹は、

神様より、与えられた責任だから、自分
は出来る限りやる、もし神様が、だめだ
と思ひになれば、私を解任するでしよ
うと云つたと話されました。そして、関姉
妹、やれるものでしょう。やろうと思つ
たら何でも出来るのですよ、とおつしや
いました。私はその、お言葉を聞いて、
一生懸命しようと決心致しました。私は
家庭集会を持つことによつて、多くのこ
とを、学びました。レッスンプランを、
繰返し、話して行くうちに、また、毎日
一時間、聖典の勉強をすることによつて
この責任を、受ける前には、あやふやで
あつた、証詞が強くなりました。例えば
前には、神様とイエス・キリスト様を信
じておりましたが、この教会が真のもの
であるという、確信はなかつたのです。
しかし、今は、一番大切なことは、ジョ
セフ・スミスが、真に神様に、逢つて、
御導きを受け、それによつて、真の教会
が回復されたことであると、心より知り
ました。ジョセフ・スミスが、真の予言
者であり、末日聖徒イエス・キリスト教
会が、真の教会であることを、確信致し
ました。またイエス・キリスト様が、私
たちの救い主であることを、心より信じ
ることが出来ました。求道者に、イエス
様のことを話すとき、私の心は、感激で
一杯になりました。家庭集会をしている
とき、聖霊のお導きを受けていると、感
じたときが、幾度もありました。私は、
何人かの、求道者の強い信仰を見て、自

分の証詞を強められました。真に、御教
えの通りにしたならば、常に聖霊の導き
を受け、神様の御旨を、正しく、人々に
伝えることが、出来る、判りました。
この責任を頂いたことによつて、私は、
この教会が、真理を教えていると、はっ
きりと、知りました。神様の御教えの、
素晴らしさと、厳しさを、身にしてみ
て、感じました。神様が、私たちを、真に愛
し、導いて下さつており、私たちが、神
様の御旨に、従つて、御許に、帰ること
が、私たちにとって、真の幸福であると
確信致しました。

経歴

一九六二年十月十四日、バプテスマを
受けました。

一九六三年九月、MIAの書記に任命

一九六四年MIAの第二副会長

一九六六年八月、エンサイン・ローレ
ルの教師

一九六六年、扶助協会、第一副会長

一九六七年五月、扶助協会、書記

一九六七年十月、ガールズの書記

菅原誠一郎

(仙台支部)

愛する兄弟姉妹こんにちわ、私の持つ
ている証詞を、みなさんにお話し出来ま
すことを大変感謝しております。神様は
いつも私たちひとりひとりを見守り愛し
ていらつしやいます。

私は神様の恵みを思うときに、ただ感
謝の気持ちでいっぱいになります。そして
「神様は私を愛している」という証詞が
強められます。

私たちがいつもこの証詞を持ちながら
生活出来るならば、なんと素晴らしいこ
とではないでしょうか。しかし、私は人
間的な弱さによつて、いつも、この証詞
を持ちながら、生活しているとは言えま
せん。それは自分の信仰の木に肥料を与
え、やしないその木を良く維持し、ま
た生長させることを怠るときにこの証詞
は小さくなります。私は会員になつても
うすぐ四年になりますが、このような状
態をなんとか繰り返しながら、神権
を与えられ、仕事を与えられ少しずつで
も進歩してきました。

神様は私たちが謙遜になつて祈るとき
に、必ず導いて下さいます。そして私た
ちがいつも謙遜な気持を持っていなけれ



ば進歩出来ないということを私は知らさ
れました。私はモルモン経のイテル書十
二章二十七節の聖句が一番好きです。

そして自分の愛のたりなきに悲しくな
るとき、この聖句によつてはげまされま
す。「もし人われに來らば、われはかれ
にその弱点を認めさせん。見よ、われは
人を謙遜にするために人に弱点を与うれ
ど、すべてわが前にへりくだる者には充
分わが恵みを授くるにより、かれらがわ
が前にへりくだりわれを信するときには
その弱さを強きに變えん。」私は船山兄
弟と共に地方部宣教師に召されたことを
大変感謝しています。そしてこの召しは
神様の召しであることを知っておりま
す。私たちはこの召しをつらいと考えた
ことはありません。ただ私たちがよりよ
く伝道出来るように、共に話し合い祈り
しました。ある宣教師が証詞したように私
たちには物質的な給料は与えられませ
んが、霊的な糧を日々与えられますことを
感謝しております。

私は最近このような証詞を得ました。
私は自分の心が弱いとき、兄弟姉妹や人
々と心から話すことが出来なくなりま
す。最近このような状態にあつたときに
断食し祈りました。しかし断食してい
てもいろいろな点で弱さをかくすことは出
来ませんでした。その日夜遅く家に帰
る途中、私の心は悲しさでいっぱいであ
りました。

私は声をあげて自分の悪い点や弱点を
なげきました。そのとき私の心の中に二
つの言葉がうかんできました。それは
「決して人を恐れてはならない」という

ことと「他人に対して決して自分の弱点をあらわしてはならない」という言葉でした。私はこの二つの言葉によって今までの悲しみがふきとび新しい希望がわいて来ました。そして「自分が弱いということとは神様だけにうちあければ良い」と思いました。

私は断食と祈りによって神様が導いて下さったことを確かに知っております。

私は今、本当に全てのことにくぐまれていることを感謝しています。私は二年前に父にバプテスマを、一年前に弟に按手札を施す機会に恵まれ、現在父は祭司でまた弟も最近祭司になりました。母は未だ会員ではありませんが私たちを良く理解し助けてくれることを大変感謝しています。私は自分の父や母のように「自分に勝つ者」になりたいと思っています。ある宣教師は私にこのようなことを教えてくれました。

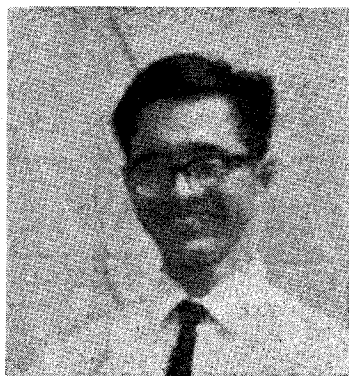
「メルケゼデク神権を持つ者はモーゼがサタンに向って退け、といったようにサタンに勝つ言が出来る」そしてそのためにはいつも主のいましめに忠実でなければならぬ、と。

私はいつも「神様は私を愛している」という証詞を持ちながら毎日生活していきたいと思います。私は神様が生きてましまし私たちひとりひとりを導いて下さるということを証したいと思います。全てをイエス・キリストの御名を通して証詞いたします。アーメン

略歴
一九六四年三月十五日バプテスマ
日曜学校 第二副会長
日曜学校 第一副会長
日曜学校 会長

船山 重憲

(仙台支部)



「われ汝らに告ぐ、汝らに就けるわが意旨を覚らしめんために今新しき一つの誠命を与う。すなわち言い換うれば汝らの救いのためになるために、汝らわが前に如何なる行いを為すべきかを指示す。」
「汝らわが言うところを行わば、主なるわれ、これに対して責任あり。されど汝らわが言うところを行わずば汝ら何んの約束を受けず。」

私は神様が真に全世界の人、ひとりびとりを愛していることを心より証詞したいと思います。また天にいます父なる神様が完全であられますように、私たち一人一人が完全な者になるように望んでお

り、それに必要な恵みと導きと試練と愛と祝福……を与えて下さることを証詞したいと思います。私たちが不死不滅の体と永遠の生命（永遠の幸福）を得るために、私たちがそれぞれの進歩の段階に応じて神様の大きな愛の御言葉、導き、試練、御業、御恵み……を感じ、知ることができ、そしてそれらを行うことにより私たちの緒徳を高め培うことができ、完全な者へと「永遠の幸福、生命」へと進歩することができ。と約束し、真に私たちが神様の言葉を従順に行うならば、このことに神様は責任をもってくれることを私は知ることができました。それは、私は今菅原誠一郎兄弟と一緒に地方部宣教師に召されて働いております。私たちがこれまで経験した事柄は喜びや楽しみばかりではなく、むしろ苦しい試練の連続であり、このことのほうが多くありました。でもこのような大きな試練、苦しみに出会うたびに自分自身を進歩させ、高めるための神様の業であり、御心であると感じてきました。
「そしてその苦しみ試練をのりこえたときに本当の喜びがあることを知り、私は喜んでこの苦しみ（試練）に堪えたいと思っています。（神様の御心のままにできるようにと祈りつつ……）」事実それらは大いなる神様の私に対する、愛の他の何物でもない感謝しております。私の今までの道（たぶんこれからの道も……）は、つまづいては転び、転んでは

ゆっくり顔をあげ、そして重い肩の荷を持ちあげるがごとく起き、そしてまた転び……このことの連続の歩みであったと思います。けれども転んだときに起きる力を与え真理の道を歩むように導き助け励ましてくれたのは神様であり、多くの兄弟姉妹父母の愛であったことを……。そして今後も、このことの確信を強め神様の愛を心に刻みつつ、愛ある行いをなせると信じております。先日私の心が非常に弱くなっていたときに、兄弟姉妹は全てにときがあること、とき的重要性について、また最後まで堪忍ぶことについて話をし、励ましてくれ、このことから、神様の愛が多くの兄弟姉妹とおして私の進歩に必要な愛の手と言葉を与えてくれ、また直接御言葉を通して私の心に示して下さることを知り、全てのことに父様の愛があることを感じております。そして感謝でいっぱいです。いつも感謝の気持を持ち生活できることを心より願っています。このように、まだまだ福音に従順でない私にさえ、行おうと少しでも努力するときに愛の手を差し伸べ、導き励まして下さり、真に神様は責任をもってくださることを心より証詞したいと思います。

愛を与えなさい。そうすればあなたの心に愛が流れてくるでしょう。
多くの人が父なる神様の御手のうちに愛のうちにありますように、全ての人の上に幸あれとお祈り申し上げます。

現在のホームティーチングについて

沼 野 治 郎

(西宮支部)

くなくの会がなかなか始められませんでした。帰る頃には田中兄弟に抱かれて、なじむようになったり、私たちの初めての試みであった、大きなリンゴーケのおみやげにみどりちゃんが大変な喜びようであったのには、私たち二人は非常に嬉しく思いました。

所で振り返りますと、ブランチティーチングの制度の頃から私は家庭訪問に参加し、その活動を欠かすことなく最近に至っております。以前から、メッセージ伝達にとどまらず信仰上の手伝いをしよう、訪問に意義を感じて、おもに不活発会員を訪れていました。そして訪問の働き甲斐と重要さを感じて、この訪問に少からず時間と体力を費してきたつもりです。訪問は喜びであり、自己の良い訓練であり、神の召しであると理解してききました。

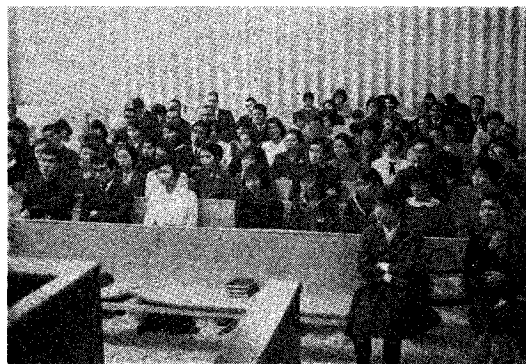
私は田中徹第二副地方部長を先輩同僚に、支部書記をされている高城兄弟の御家族を十、十一月二回にわたり訪問させていただきました。時代の先端を行く電子計算機を扱う会社に勤められる高城兄弟は極めて忙しい方で、出張が多く毎日毎夕が貴重にもかかはらず、快よく訪問を受けて下さり感謝しております。二才半になろうとするみどりちゃんと今年六月に生れた、みや子ちゃん(MIAに因む)が揃って迎えて下さり、皆で楽しく語り、信仰生活、家庭生活それに育児、しつけ等について親しく交換し、啓発し合うことができました。みや子ちゃんが私たち二人を見て、初めの内はひと

しかも福音のより生きた実践のために組まれた新しく始まろうとする制度にすぐ共鳴し、大きな変化と努力の要求されることは覚悟しつつも、心から受け入れることができました。

西宮支部では、初め、以前の被訪問者の数を、あまり変えずにそのまま移行しようとしたため、東京地方の模範に習って引き締まったのは漸くこの十月で、大神権者の家族四軒に絞って再出発しました。なにぶんまだ始まったばかりですが、今の所支部長会員の家族等が訪問の対象となり、今までになかった豊かさや価値、喜びを感じています。数人私の名の下に集る所には、聖霊が宿るとキリストが云われたように、その霊を感じ、全てが福音にそって大きな力で障害を越え、援け合い、完成へ向って行くように感じられます。

来年から少しずつ範囲を拡げて行くことになると思いますが、手引に従い巧みに、また慎重にその操作がとられ少しでも早くもっと拡げられて、毎週のように行く日がくるのを楽しみにしています。

恐らくまた以前に感じた困難と壁に遭遇するに違いありませんが、今度は私の家を訪れて下さるよいホームティーチャーのために、支部全体のためにも、私自身勤勉なよい兄弟となって、より備えられた大神権者として神に喜ばれる器になりたいと思っております。



沖 經 地 方 部 大 会 (一般大会)

日曜学校レッスン (Aコース)

伝道部日曜学校会長会

第一章

地球はどこからきたか？

(創世記 一章)

私たちの住んでいる世界は素晴らしい所です。花咲き、鳥歌い、山あり、湖あり、私たちは日夜あらゆる動物や昆虫などを見ます。それらはいったどこからきたのでしょうか。だれがそれを作ったのでしょうか。夜、空に多くの星や月の光っているのを見たとき、それらはどこからきたのかと不思議に思いませんか。

これらの星はとても小さく見えるが、実は大変大きく、事実多くの星は太陽より大きいし、また太陽は地球の何倍も大きいのです。太陽や月や星は、遠い所にあるので小さく見えるのです。これらの星の一つの上に、神様が住んでおられます。神様は私たちの天のお父様です。私たちは神様の子供だから、お父様と呼ぶのです。私たちの家庭にいるお父さんと同じように、霊のお父さんである神様を天のお父様と呼びます。なぜなら神様は栄光の内で作られた輝く星の上に住んでいるからです。その天の家から私たちのお父様は、すべての他の星や、また私たちの住んでいる地球を見守っておられます。神様はこれらすべてのものをお造りになったので、またすべてを支配なさいます。主は私たちの住んでいる地球もお造りになりました。私たちの地球には

土や金属や水や岩や生物があつて、何千年かその昔これらのものがまだかたちづくられないときがありました。それらは一度にそろって造られたものではありません。そのとき、光はありませんでした。

昼光る太陽も、夜光る月もなく、すべては暗闇でした。そこで神様は光あれと言われました。そしてその力によって光がきました。次に神様は光を闇から区別して昼と呼び、闇を夜と名づけました。神様は更に水や岩や土をお造りになり、水を乾いた土から区別して海と名づけ、乾いた土を陸と名づけられました。それから今私たちが地球上に見るような木や花や草の種を植えられたのです。そして種から生じた草木花は、更に多くの種をもたらすように命じられ、その植物がよく生長するように雨を降らせまい、よくのびるように暖い太陽の光をお与えになりました。神様は夜にも光を与えるよう、月や星を造られました。その後には神様は魚やその他すべて水の中にすむものを造られました。それから空に飛ぶ鳥や、地に住む動物、そして私たちが今日見るようなすべてのものをお造りになりました。神様はすべての鳥や魚や動物をお造りになったとき、それらのものがそれぞれの子孫を生んで、永久に地上に生存を続けるように命じられたのです。このようにして地球や、すべての植物や動物が造られました。

第二章

主は人間を造られた

(創世記 二章)

あなたは主がなぜこの美しい地球をお造りになったか知っていますか？ 神様はかつて、天の家に彼と共に住んでいた御自分の子供たちのために、その住むべき家として造られました。私たちは神様の子供で、ずっと前に神と共に天上に住んでいたのです。そのとき、私たちは霊の状態でした。霊は私たちと同じようなものですが、私たちが現在もっているような血や骨肉を持っていません。神様は私たちに父なる神様の子供として、その一つを持つように望んでいらつしやいます。私たちが肉体をもつことのできる唯一の道は、この世に来ることです。天父なる神様は天の家に私たちを集めて、もし私たちが望むならこの目的のために私たちを地上に送るであろうと言われました。私たちは皆、喜びの声をあげました。

神様は植物や動物をそなえてこの地球を完成された後、人間を地上に送る準備をなさいました。そして最初にアダムとイヴを選ばれたのです。神様はアダムを御自分の形に似せてお造りになりました。これより天父は私たちに似ており、私たちは神様に似ているということを知ることができるようです。けれども主の体

は美しく、決して死を味わうことがないのです。私たちも体を清く保ち、神様の誠命を守るならば、この世を去ってから神様と同じようになることができます。神様はアダムのために肉体を造って、その中にアダムをお入れになりました。肉体は霊を宿す家のようなものです。私たちの肉体が死ぬと、霊は再び神様のもとへ帰ります。

アダムの霊が肉体に入ると、彼は呼吸を始め、最初の人間となったのです。主はアダムが一人で地上に住んでいるのはよくないことを知っておられたので、その娘の一人イヴの肉体をお造りになりました。こうしてイヴは地上に於ける最初の女となったのです。そして主はイヴをアダムの妻としてさすけられました。

それから主は他の霊たちも地上の生活が楽しめるよう、子供たちをもつように命じられました。

主はアダムとイヴに土地を耕して、きれいにしよう命じました。神様は庭を地球の一部とし、そこをエデンと名づけました。そしてアダムとイヴをその庭に伴い、彼らの家としてそれを与え、よく世話をするように言われました。そこは素晴らしい所で、あらゆる花や木が生え、また多くの動物が生存していたがお互に争うようなことはありませんでした。すべて平和で静かで、その庭は天国のようでした。ライオンやとも今のように狂暴でなく、子猫のように愛らしく戯れて

いました。他のすべての動物も同様でした。そこには死も病氣もなく、あるものはすべて人を幸福にするものだけでした。アダムとイヴが地上の生活を始めた所はそのように良い所でした。

第三章

最初の安息日

(創世記 二章)

神様が地球を創造された期間は、六部に分けられます。その各部は日と呼ばれますが、これは今日私たちが普通に言っている二十四時間の一日をさしているものではありません。なぜなら神様がこの仕事を始める決心をなさったときは、毎朝太陽も昇らず、夜には月も光っていないのです。それらはまだ造られていなかったのです。

第一日目に主は光を造りました。二日目には、地球の物体と天を分離しました。三日目に海と陸を造り、地上に草木を植えました。四日目に主は、太陽と月と星を置き、光を与え、日や季節や年を与えました。五日目には、水中に生物、空にはあらゆる鳥を造りました。六日目には残りの動物をお造りになり、最後人間を造られました。

そして七日目が来しました。この日に神様はすべての働きを休み、その日を祝福し聖められました。これが最初の安息日です。それは主の翌日であり、主は地球

上の子供たちにも、その日を聖くするように教えられました。主は安息日にはいかなる働きをもしてはならぬと言われました。それであるから私たちは、その日にすべての労働を止めて、休息せねばなりません。私たちだけでなく、家族のものも、動物を飼っているなら、それらのものもすべてその日は休息しなければなりません。安息日を娯楽に過してはなりません。聖く保たねばならないのです。主は予言者を通して、安息日を娯楽に過したり、聖日を休日にしたりしないように教えられました。

第四章

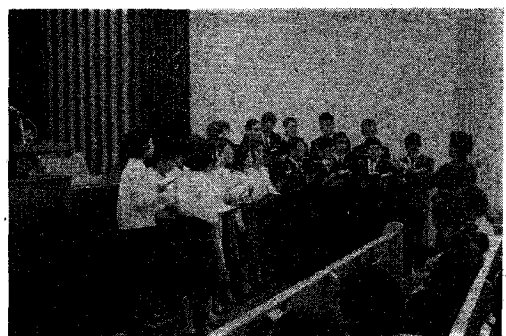
アダムとイヴの墮落

(創世記 三章)

主は世界をお造りになる前に、霊の子供たちを天の家に集めて、彼らのために世界を造る計画を教えられました。その集会で神様が私たちにお話なさったことは、私たちが本当に幸福にし、私たち自身大きな喜びの歓声を上げたのです。

けれども年長の一人は怒りました。その名はルシフェルと言い、彼は神様の計画に反対し、他の者にも助けを求めました。その結果、彼は神の子供の三分の一を従えしめるに至りました。

私たちの御父の長子は忠実で真実でした。彼の名はエホバと言い、彼はただ、父の御意志を行うことのみを念願してい



沖縄地方部大会（一般大会）聖歌隊

ました。このために彼は救い主として選ばれたのです。彼は地上に降臨したとき、イエスと呼ばれました。

エホバはルシフェルとその使いたちとの戦争に於て、残余の軍勢をあげ、彼らを天上より追い出してしまいました。その結果、彼らは肉体を持たずに、地上に降りたのです。これは彼らに対する大きな罰でした。何故なら、この世界を造つた目的は、私たちがここに来て肉体を得ることができるようになるためだからです。

だがルシフェルとその従者たちは神に反抗したため、それを止められてしまったのです。そのときより、ルシフェルはサタンあるいは悪魔として知られるようになりました。

主がエデンの園にアダムとイヴをおかれると、すぐにサタンがその園に入つて来ました。サタンはそこに主がアダムとイヴに食べてはならないと告げた、実のなっている一本の木があることを知っていました。彼らはすべての他の種類の果実は食べることができたが、禁じられていた果実は食べるべきではありませんでした。主はアダムとイヴが誠命を守ることができかどうかを試すために、そこにその木を置かれたのです。主は彼らに、もしこの木の実を食べたら、あなたは死ぬであろうと言われました。

これを知っていたサタンは、もしアダムとイヴを誘惑して、この果実を食べさせたら、神の計画を破壊することができ

ると思ひました。そして禁断の実を食べ、アダムとイヴが死んだらすべての計画を終らせることができるだろうと思つたのです。

そこでサタンはアダムの所に来て、その果実を食べさせるように試みました。だがアダムは主の誠命を覚えていて食べようとはしませんでした。次に彼はイヴの所に行き、その果実を指差して、これはとてもおいしい果実で、これを食べると神様のように善悪を知ることができるようになるだろうと言いました。イヴはそうになりたいと望んで、その実を食べてしまいました。そして更にサタンはイヴを彼女の夫の所に遣わして、彼にもいくらか食べるようにすすめさせました。

アダムはイヴがその果実を食べたので、美しいエデンの園から追い出されてしまうことを知りました。そうすれば彼は一人、そこに残されることになりました。もし彼が妻を持たなかったら、どうしよう一つ一つの誠命である。他の霊の子どもをこの世に迎え、家族をつくることを果すことができましようか？

アダムはもし自分もその果実を食べたら、イヴと共にあり、直に死ぬことなく死すべき肉体と化して、死ぬまで多くの年月を共に暮すことができるということを知っていました。そしてこの間に彼らは多くの子供を生み、天の霊たちに肉体をとる道を開くことができると考え、そ

こで彼は妻と共にいるために、彼もまたその果実の幾らかを食べたのです。

間もなく主がその園に彼らを訪ねて来ました。主はアダムとイヴが隠れているのを知つて、彼ら呼んで言われました。「お前たちは私が食べてはいけないと言つた木の实を食べたか？」

彼らはサタンが如何に彼らを試みたかを告げました。主は怒り、彼らに対してこう言われました。

「お前たちは私が食べてはならないと言つた木の实を食べたから、土地はお前たちのために呪われた。それを食べたことを生涯悲しむであろう。藪やあざみがその上に生じ、お前たちは野の草木を食べねばならぬであろう。お前たちは自らそのひたいに汗して、パンを食べねばならぬであろう」と。

そこでアダムとイヴは美しい国から追ひ出されてしまいました。主が地を呪われたため、地には雑草が生え始めました。アダムとイヴは食べられるものを生長させるため、一生懸命働かなければならなりません。彼らは農夫となり、豆類や野菜や多くの家畜を養育しました。

地上に呪いがもたらされたため、多くの獣が悪化して、相互に闘争し、地球とその中の生活が今日見られるような状態になつてしまつたのです。



バンド ガラクターズ 合奏



証 詞

第五章

アダムとイヴは神を礼拝する

(高価なる真珠 モーセの書五章)

アダムとイヴはエデンの園に住んでいたとき、彼らをその美しい新しい家に訪れた神と共に歩き、共に語ることができました。けれども園から追い出されてからは、主の面前に在ることを許されませんでした。だが彼らは尚神を愛し、再び神と共に住めるように祈りました。

神に対する愛を示すため、彼らは神様に犠牲を捧げました。そのために彼らは石を集めて、祭壇を造り、その上に火を燃やした。そこで彼らは彼らの家畜の群の中から最上の小羊を取って、それを祭壇で焼いた。これは彼らが進んで自分たちの所有物を主に捧げることを示したものである。

それはまた、彼らに何時の日かエホバが彼らの救い主として来て、十字架上の犠牲として彼らを死と罪から救われることを彼らに記憶させるものでした。

ある日天使がアダムのもとに来て、エホバなるキリストの福音について教えた。アダムはもし福音の教え通りに生活するならば、イヴと共に神の面前に帰ることを許されるであろうと教えられました。アダムもイヴも共にそれを望みました。彼らは教えを受けた後、バプテスマを施され、聖霊を受けました。彼らに子

供ができるとアダムとイヴは子供たちにも福音を教え、如何に神様に祈り礼拝すべきかを示しました。

第六章

カインとアベル

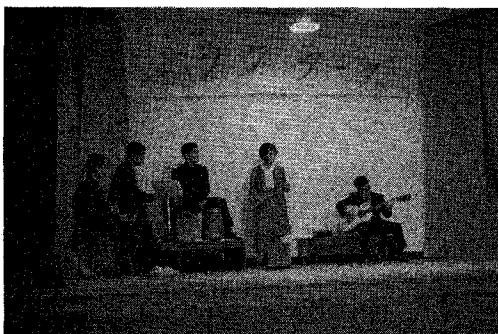
(高価なる真珠 モーゼの書五章)
(創世記 四章)

アダムとイヴはたくさんの子供をもっていました。その中にカインとアベルという二人の息子がいました。小さい時から彼らは両親を助けて、農場で農耕や家畜の飼育について学びました。カインは百姓になり、土地を耕しました。アベルは羊飼いとなって羊の群を見守りました。彼らの両親は子供たちに神を礼拝し、良い生活をするように教えました。アベルは教えられた通り実行し、主を愛することを学びました。けれどもカインはそうではありませんでした。彼は両親に逆い、罪に陥ってしまいました。彼の父が主に犠牲を捧げるようにすすめても、カインは利己心から自分の財産を愛し、少しでもそれを与えることをきらいいました。アベルは喜んで主に犠牲を捧げ、真心を以って礼拝しました。彼は最初に生れた小羊で、最も立派な肥えたものを犠牲に供しました。彼は神様のためによすぎるというほどのものはないと思いました。神様はそのようなアベルを愛し、彼の捧げ物を受取り、彼を祝福しました。

カインは神よりもサタンを愛しました。そしてサタンが彼に告げることをなし、主が頼んだことはしませんでした。サタンはこれを知って喜びました。カインは主が頼んだにも抱わず、犠牲を捧げようとはしませんでした。けれどもある日、サタンがカインの所に来て、主に犠牲を捧げるように告げました。サタンはカインが正しい精神でなく、けちけちながらするであろうことを知っていました。ある日、カインは主に犠牲を供しました。けれども神はカインも、またその捧げ物をも尊びませんでした。そして主は私たちに、いやいやながら誠命を守るなら、守らないと同様であると教えました。私たちがもし喜んで贈り物を神様に捧げないなら、それは受け取っていただけないのです。

カインがそうでした。彼は主がアベルの喜んで捧げた最上の犠牲を受け入れ、自分のが拒否されたのを知ると非常に怒りました。主は厳しく彼に何故怒ったのかと尋ね、もし彼が正しく行ったなら受け入れられたであろうと話しました。

利己心の強いカインは常により多くの財産を欲しました。そしてアベルが財産家であるのを羨望し、それを自分のものにしようと考えていました。するとサタンが再び来てカインに対し、その弟を殺せば、アベルの羊群が得られるであろうとそそのかしました。するとカインはアベルの働いている野原に行つて、彼を殺



空びんのふた、ちり箱、等の活用楽器



アメリカ西部の巻 恐るな聖徒

第七章

エノクと彼の市街

(高価なる真珠 モーセの書六・七章)
(創世記 五章)

してしまいました。そして自分のなしたことを讃えて言いました。「俺は自由だ。弟の羊群は正に我が手に入った」このようにしてカインは地上に於ける最初の殺人者となつてしまつたのです。彼の心はかたくなになり、不従順な彼は遂に神の敵となつた。

主は直ちにカインに彼の恐るべき犯罪について語り、「弟アベルはどこにいますか」と言われました。するとカインは私は知らないとうそを言いました。そして自分の答を正当北しようとして「私が弟の番人でしょうか」と言つたのです。

殺人は許されない犯罪です。カインはその身に呪いをもたらし、この世に殺人をもたらしため、神の怒りを受けました。カインが穀物を生産する土地に頼っている、農夫であることを知っておられた神は、その犯罪のためよき収穫に恵まれないことを宣言しました。それによつて土地の一部は取り去られてしまいました。

主はカインに家なき地上の放浪者となるであろうと言いました。カインは罪の宣告に驚いて、神様に向い、サタンがアベルの羊群を目あてにアベルを殺せと誘惑したのだと告げました。さらに「私の罰は重くて負いきれない」「私を見付ける人はだれでも私を殺すだろう」と言いました。そこで主はカインの皮膏を黒くして、だれが見つけても殺さないようにしました。

アダムの子や孫たちは遠く方々に拡がつて都市を建て、農場を作りました。多くの者は正しく生き、主に仕えたが、他の者は悪くなりました。この地上で最年長者であつたメトセラの父に、エノクと言う人がいました。メトセラは九百六十九才まで生きました。エノクは舟を造つたノアの曾祖父でした。彼は真によい人生を送りました。天より神が下り、彼と共に語り、共に歩いたのです。けれどもエノクは非常に内気で、彼の世代に住んでいた悪人を恐れていました。ある日、主はエノクにこれらの悪人に説教するように命じられました。神様はこれらの悪人が悔い改めなければ、亡ぼしてしまうとされました。そこで主はエノクに彼らを救つてみるように頼みました。この召しはエノクを非常に驚かせました。そしてエノクは主に言いました。「私はほんの若者にすぎないし、すべての人が私を憎んでいるし、私は口べただから……」と。主は答えられました。「行け、そして私が命じたごとくなせ。だれも汝を書さないであろう」主はまた、エノクにただ一言言えば、山も動き、河もその方向を変えようような偉大な力を与えるであろうと言われました。

主の約束に慰められて、エノクは説教を始めました。彼は高いところの頂上に立つて、大声で人々に、主が訪ねて人々に悔い改めを呼びかけるように告げられたと言いました。エノクは罪ある人々を咎めました。それによって人々は非常に怒りました。しかし主の言われたごとく彼は害されませんでした。

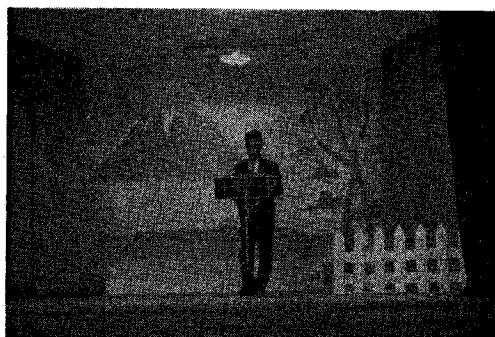
彼の言つたことは、人々の間に大いなる刺戟を惹き起しました。ほとんどすべての人が彼を見、彼の話を聞こうとしました。人々は仕事を休めて、彼のいるところに集つて来ました。ある者は、彼を予言者と呼び、またある者は彼を野人だと思ひました。だが人々は彼の言うことを聞くと彼が予言者であり、神と共に歩いている者であることを悟りました。

彼らはエノクの説教を聞いていると恐怖感におそわれました。彼らは自分の罪がやがては、自分自身を滅亡に導くであろうことを知りました。彼らは自分の命の救われんことを願いつつ、エノクの説教に注意を向けました。エノクは予言者のごとく力があり、人々は震えて、彼の前に立ち得ない程恐れしました。

多くの人が彼の言葉を信じ、よい生活をしようと決心しました。エノクは説教を続け、日に日に多くの人が彼の集会所に集うようになりました。それはそこに町が造られる程になりました。彼らが建設したその町はシオンと名付けられました。彼らの敵が攻めて来たとき、エノク



沖繩の古歌の琴



地方部長のサキソホン独奏

は人々を導いてついに勝利を得ました。すべての敵は彼を非常に恐れました。主が彼に与えられた力を用いて、エノクは言葉を發して、山を動かし、河の方向を変え、その他の大いなることなどをしました。野にはライオンの叫びが聞え、海の深淵からは新しい土地が出現して来ました。エノクの敵はこれを見ると、遠くの方へ逃げ去ってしまいました。やがてエノクの敵はお互の間で争いを始め、戦争があちこちで起つてしまいました。けれどもシオンと呼ばれたエノクの市街は平和で、主が来たりて、彼らと共に住まわれたのです。なぜなら彼らは義の民であつたからです。

主はその市街をシオンと呼ばれただけでなく、シオンに住む民をも正しい人々であるがゆえにシオンと呼びました。彼らの中には悪い人はいませんでした。

地上におけるその他の民は非常に悪かつたので、主はエノク及び義の市シオンを悪人から取り去ろうと決し、彼らを天上に連れ去られたのです。エノクは地上の民を見下ろし、彼らがいかに悪くなつたかを見て泣いてしまいました。そして天も共に泣き、彼らの涙は雨のように地上に降りそそいだのです。

主はエノクに、これらの悪人共を打滅ぼすために洪水がもたらされ、悪人共が溺死した後地上の人間がよりよき生活をなし得るや否やを見るため、新しき出発が始められるであろうと告げました。エ

ノクは主に彼の家族が、この新しい出発のメンバーになれるよう願いました。主はこれを許されました。そういう訳でシオンの街が天上に取り上げられたときにも、エノクの一人息子とその家族は地上に残されたのです。その息子の名前はメツセラと言ひ、彼は九百六十九才まで生きました。彼は船を造つて洪水より救われたノアの祖父でした。

第八章

ノアと洪水

(創世記 七―八章)

メツセラにはラメクという息子があり、ラメクが百八十二才になったとき、息子が生れ、その名をノアと名付けました。

ノアには三人の息子がいました。長男をヤベテと言ひ、一番下をハムと言ひました。他のもう一人をシエムと言ひました。ノアと彼の子供たちは主に仕え、神の息子たちと呼ばれました。

予言者としてのノアは民に説教し、あなた方は悔い改めなければ打ち亡ぼされるであろうと警告しました。主は人々の罪についてノアと話され、かつ言われました。「わが靈魂は常に人と争うものではない」主は「民にさらに百二十才の生命を与えるであろう。しかし尚彼らが悔い改めないときは、彼らに洪水をもたすであろう」と言われました。

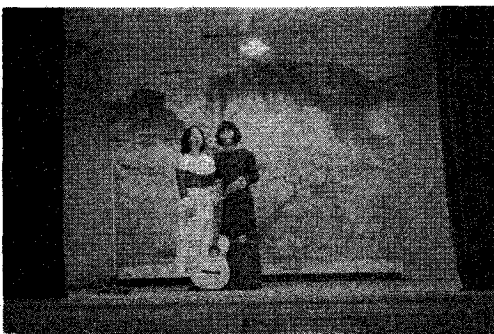
その当時、まだ巨人が住んでいて、彼らはノアを殺そうとしました。けれども主が彼を守つたのであります。主はノアを愛しておられました。なぜなら彼は彼の世代において完全であり、神と共に歩んだからであります。彼の三人の息子も同様でありました。

人々が悔い改めないとき、主はノアに洪水が起つても、彼と彼の息子たちおよびその妻たちが救われるように箱舟を造るよう告げられました。主はノアに洪水が静まった後、多くの獣や鳥が繁殖するようそれらのために、箱舟の中に部屋を造りなさいと言われました。

箱舟が準備されたとき、ノアと彼の息子たちは主の言われた通り、獣と鳥を集めて箱舟の中に入れました。彼らはさらに新しく生活を始めるために食糧やその他の物を舟の中に持込みました。最後に彼らは妻たちと共に箱舟に入つて、戸を閉じました。

洪水は始まりました。四十日四十夜、たくさん雨の雨が地上に降りました。多くの溜りや泉から水が溢れ出しました。箱舟はノアの家族を乗せて、暴風雨の中を無事浮んでいました。けれども他の者は全部死滅しました。彼らはノアと箱舟を笑つて主の警告を信じませんでした。今彼らは自分たちの悪のゆえに死んだのであります。

雨は降り続いて、地上の水かさは一番高い山頂をも覆つてしまいました。ちょ



西部の歌



平良兄弟の独唱

うど、大地は主によってバプテスマを受けたようでありました。

百五十日後に主は風を吹かせ、水は少しづつ引いてゆきました。七カ月目に水はすっかり引いて箱舟はパレスティンからあまり遠くないアルメニヤ地方のアラテの山頂に碇泊しました。四十日後にノアは窓を明けて鳩を放ちましたが、それらの鳩は降りるところがなくて、すぐ戻って来ました。さらに七日経って、彼は再び鳩を放ちました。するとそれらの鳩はオリーブの葉をくわえて戻ってきました。そこでノアは、土地が現われて来たことを知りました。彼はさらに一週間後、鳥を放って戻ってくるかどうか見守っていました。だがそれらは遂に戻って来ませんでした。

ノアと彼の息子たちは、箱舟の頂上を開けて、外を眺めました。土地は乾き上っていました。そこで彼らは同伴して来たすべての獣や鳥を自由に放してやりました。そして彼ら自身も外に出ました。彼らは今まで無事であったことを感謝して、祭壇を建て、神に犠牲を捧げました。

ノアの家族は八人でありました。すなわち。彼と彼の妻、及び三人の息子とその妻たちであります。彼らは生存した唯一の人類でありましたので、全世界を所有しました。神様は再び彼らに、日々の仕事をしよう、そして家を建て、畑を耕し、よい家族を養うように言われました。

神様は地が再び洪水に覆われることのないことをノアに約束し、その約束を常に忘れないようにするしとして、私たちに虹を与えられました。

第九章

バベルの塔

(創世記 十一章)

ノア及びその息子たちの家族は、月日と共にまたたく間に成長して、箱舟が着いたところより遙か遠くに住むようになりました。ある者たちはパレスティンから六百軒程離れているところで、後にバビロンとなったシナイという地方に移りました。彼らはレンガを造って、家やその他多くの建物を建てました。彼らはレンガやモルタルによって偉大な建築家となり、大都市を建設する決心をしました。

彼らは榮えてくると、次第に傲慢になり、野心家になって行きました。彼らは市街を建てるため、一生懸命働きました。そしてそれを他人の羨望の的とせんとしてしました。彼らは一つの高い塔を建てる計画をしました。そしてその先端は、天に届く、ような塔でありました。彼らはその塔に必要な幾千万と言うレンガを造り、塔の建築に取りかかりました。夜を日について彼らは働きました。塔はだんだんと高くなり、その高くなるにつれて、人の心も高慢になりました。彼

らは自分でなしたことを誇りました。彼らの心に生じた誇りに、洪水によって教えられた教訓を忘れ、神を忘れさせるようになりました。

このことはつい先頃、大地の罪を清められた主を悲しめました。ある日主はその市街と塔を見に降りて来られました。主は、人々がもしへりくだらなければ、彼らもまたその先祖が洪水によって滅ぼされたように、罰せられるであろうことを知りました。

そして主は彼らをその愚から救わんと計画しました。彼はもし彼らを世界中に散布させたら、その悪い仲間同志の団結が壊されて、よりよい生活を始めるであろうと感じました。主はその通りに始められました。彼は言われました。「さて降りて行って、彼らがお互に話すことができないように、その言葉を乱してやろう」神様はこれを実行なさいました。その結果、多くの新しい言葉が、人々の間で語り始められました。

お互に言葉が通じないようになってから、彼らはお互のことに関して、関心をもたないようになりました。友情は終わりました。多くの者が、市街を去って、それぞれ異なった方向に移動しました。主はそれから人々を、広く世界中に散らされました。



拍手カツサイ



ハワイアン の 部

第十 章

ジェレドの民、バベルを去る

(モルモン經 イテル書一—十六章)

バベルに住んでいた家族の内に、ジェレドとその兄弟がいました。彼らは義人でありました。ジェレドの兄弟は、神と語った偉大なる予言者でありました。彼は父母兄弟姉妹がお互いに話すことがわからなくなってしまうように、彼ら自身の言葉を害されることがないように頼みました。

主はこの要求をお受けになりました。だが彼らにその地を離れて、遠くの地に旅しなければならぬと告げました。主はその地は約束の地で、義人のために保存された最上の土地であると告げました。けれどもその新しい土地は、バベルの市街より遠く離れていました。大洋がその間に横たわっていました。彼らはどのようにして旅することができようか。

主は進んで彼らを助けようと思われました。彼はジェレドの兄弟に、海面及び海中をも航行できる、八隻の舟を建てるように命じました。小さい一団はそれらの仕事を始めました。彼らはどんなに激しい暴風雨にも害されない舟を建造しました。舟に頭上も底もすべての周辺は、どんな波がおし寄せてきても、漏らないように封じられました。

舟が完成すると海中を航行できるように、すべてのものを封入しました。けれども船内は誰も見ることができない程、真暗でありました。人々は果して、そのような暗闇の中で、長途の旅行ができるのでしょうか。

ジェレドの兄弟は、主が彼らにある光を与えるであろうことを確信していました。彼は山より十六の小さな石を切つて、主がそれに触れて、光を与えて下さるようにと祈りました。石はガラスのように澄んでいました。ジェレドの兄弟が祈りを終えると、主はその手をのべて、一つ一つの石に触れました。するとその石は光を放ちました。その石が光を放つたと言つても、燃えたものではありません。もし燃えたのなら、船まで燃えてしまふでしょうから。

ジェレドの兄弟の信仰は、主の指を見得る程偉大でした。それはちょうど人間のようにでありました。ジェレドの兄弟はそれを見ると驚いて、主の前に倒れてしまいました。主はジェレドの兄弟が地に倒れたのを見て「立て、なぜ倒れるか」と言われました。するとジェレドの兄弟は答えました。「私は主の指を見て、主が血肉の指を持っておりたもうとは知らなかったのです。主が私を打ちたまいはせぬかと思つた」と答えました。

主はそのときは骨肉の体をもつていませんでしたけれども、いつか肉体を具えて世に下り、人々の間に住んで、世の救

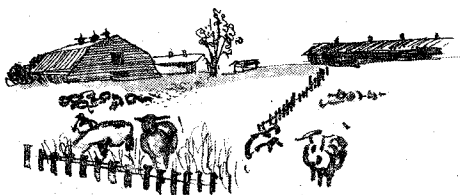
い主となるであろうと説明されました。イエスの霊体は人間の形をしているのです。なぜなら人は神の形に似せて造られたからです。そこで主は自分自身をジェレドの兄弟に示して言われました。「我はイエス・キリストなり。」

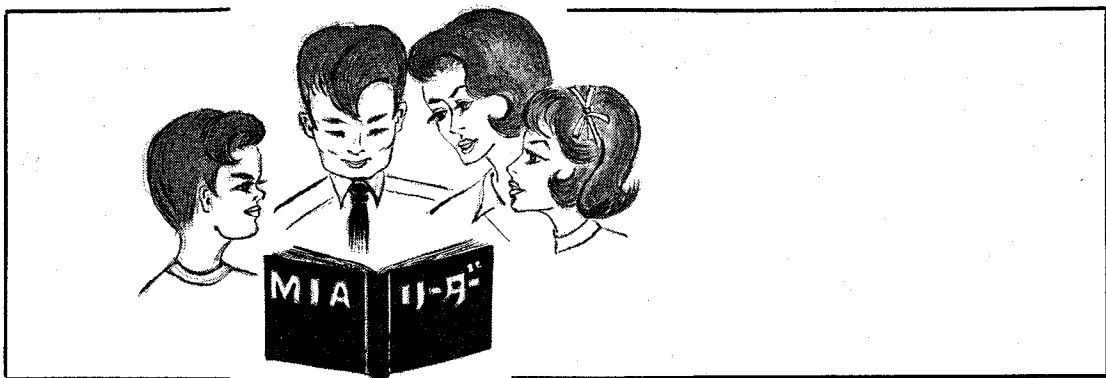
主はジェレドの兄弟程、信仰の強い者が他にいないので、まだその姿を他の誰にも現わしたことがないと言われました。主はさらに「汝が今見るこの体は我が霊の体である。そして人間は私の霊の体に似せて造つたのである。我は霊体によつて汝に現われたが、肉体をとつて我が民に現われるであろう」と言われました。

救い主は、ジェレドの兄弟に、彼が見た示現を記録するように、そしてそれはイエスが十字架にかかるまで、誰も読むことができないように封じておくように言われました。彼はその通りにして、記録は隠されました。それはモルモン經典に記されてある通り、多くの年月を経てニーファイ人によつて発見されたのです。

ジェレドの兄弟は、光つた石を持って山を下り、一つずつ各船の船尾におきました。石は船内を輝かし、皆の者は大喜びしました。さつそく、ジェレドとその兄弟及び家族たちは、食糧を船内に持込み、約束の地に向つて出帆しました。

主は船を進めました。暴風るときには彼らは海面より深く没して進み、ちやうど鯨のように水中を進行しました。長い航海の後に、彼らは約束の地であるアメリカに着いたのです。予言者リーハイの指導によつて、ニーファイ人が来るまで彼らは、ジェレドの民としてアメリカに住んでいました。





ユースコンファレンス のお知らせ

九月頃、伝道部長の発案により、この大会のプログラムを伝道部MIAで計画致しました。

そして伝道部長会承認のもとに、十月にありました「地方部長ゼミナー」の時に発表致しました。

然しながら、まだまだプログラムに検討する余地が残されておりましたので、その後何回か伝道部MIA及び伝道部長会で討議された結果、次の様に決定致しましたので、お知らせ致します。

(地方部長ゼミナーで発表したものの、又先月号の聖徒の道に発表したものは多少違う点がありますことをここでお詫言申し上げます)

尚また、今回のプログラムに関しまして、会場その他の点で変更があるかもしれないので、あらかじめ御了承願います。

第一日目、八月八日(木)午後一時より、全日本卓球選手権大会を行います。

今年行いました卓球大会は、地方部対抗でございましたが、代表選手を選ぶのに色々問題があるものと思われ、今回は広い会場を使って、ブロック対抗で行います。

しかし小さな支部では選手を出すのに大変だと思われるので、合同支部を作

り、全国を十六のブロックに分けます。(二月号聖徒の道に発表致します)

各ブロックから、男女シングルスに各一名、男女ダブルスに各一組、混合ダブルス一組、計八名の選手が出場出来ません。(二人一組目しか出場出来ません)

ここで優勝された選手が第三日目の八月十日(土)に行われます「インターナショナル卓球選手権大会」に出場致します。夜の歓迎会は、卓球と同会場で行います。(只今計画)

この晩は民泊と致します。

第二日目、八月九日(金)、午前十時からスピーチコンテストを行います。

各ブロックから一名、計十六名で、一人の持時間は五分間です。

音楽コンテストは、小グループ(二人一八人程度)、大グループ(十人以上)を各ブロックから、大小どちらかの一つのグループを出していただきます。

夜は演劇を行います。出来るだけ沢山の方が参加出来るように目下計画中であります。

第三日目は午前九時から「インターナショナル卓球選手権大会」を開きます。

アジアの各伝道部から訪日された優秀な選手たちと華々しい競技会を開くわけです。そのあと小休止してから地方色豊かな「マスゲーム」を行います。ここで兄弟、姉妹たちの親睦を尚一層深めてもらいます。午後は希望者のみでバスケットボールやバレーボール等のスポーツを

楽しみ、他の人たちは自由行動に入ります。

夜はダンスパーティーを開きます。

第四日目は霊的な雰囲気包まれ、朝早くから神権会と扶助協会、次いで一般の証詞会を開き、午後一時に四日間に行なう「ユースコンファレンス」の幕を閉じることになります。

これ等のプログラムを素晴らしいものにするため、伝道部長会、伝道部MIA会長会、地方部の各組織に絶大なる御協力をお願い致します。

尚、大会開催中の宿泊は原則として兄弟姉妹宅の民泊と致しますが、二日目の晩はプログラムや会場の都合で希望者を募り、ホテルに宿泊して頂くこととなりますが、その場合は二食付でも一、五〇〇円以内にする予定です。

毎月の「聖徒の道」またはMIA役員の伝達に注意して下さい。

(32頁より続き)

モルモンとして、すばらしい会員になるためにはただその心構えにあるのではないかと思います。私も常に学び、祈ってこの責任を果すよう努力し、会長さんである佐藤姉妹を支援し、良きカウンセラーでありたいと願ってやみません。

兄弟姉妹の方々の御指導をよろしくお願いいたします。各支部のMIAの発展をお祈りしております。

(伝道部YWMIA第一副会長)

ユースコンファレンス・プログラム予定表

日	時間割と内容	会場予定地		宿 泊
第一日目 八日 (木)	P. M. 1:00 ~ 5:00 全日本卓球選手権大会	目黒体育館 岸記念体育館	5 種 目 1人1種目 16ブロック	民 泊
	P. M. 6:30 ~ 8:30 歓 迎 会	同 上		
第二日目 九日 (金)	A. M. 10:00 ~ 12:00 スピーチ・コンテスト		1 人 5 分 16ブロック	合同宿泊 または 民 泊
	P. M. 1:30 ~ 3:30 音楽コンテスト		小グループ8ブロック 大グループ8ブロック	
	P. M. 6:30 ~ 9:00 演 劇			
第三日目 十日 (土)	A. M. 9:00 ~ 10:30 インターナショナル 卓球選手権大会 A. M. 11:00 ~ 12:30 マス・ゲーム		各伝道部対抗	民 泊
	P. M. 1:30 ~ 4:00 スポーツ (自由参加) 自 由 行 動			
	P. M. 6:30 ~ 8:30 ダ ン ス			
第四日目 十一日 (日)	A. M. 9:00 ~ 10:00 神 権 会 扶 助 協 会			
	A. M. 10:30 ~ P. M. 1:00 証 詞 会			

愛する兄弟姉妹の皆様

塚田 恵子



この度、新しい責任の召しを頂き感謝
でいっぱいでございます。

「汝ら須らくすべての悪を捨て去り、すべての善に固く就くべし。また須らく神の口より出するあらゆる言により生くべし。神は忠信なる者たちに、規則に規則を加え、誠命にいましめを加えん。かくしてわれはこれをもつて汝らを試み汝らを驗すべし。」(教義と聖約九十八章十一、十二節) 神様の仕事に参加しているときの喜びほど大きいものはないと思います。信仰生活約九十年の間、神様のおみちびきと兄弟姉妹の愛と助けによって、多くの霊的なすばらしい経験をしました。

小学生の頃からカトリック教会に日曜日ごとに出席していた私はむしろ宗教に興味をもっていたほうでした。

ジョセフ・スミスのパンフレットを読み終えたとき、何かとても良い氣持をう

けたことをなつかしくおぼえています。

会員となった私の最初の責任は子供日曜学校の教師とMIA第二副会長でした。その当時は教会堂もありませんでした。たが、とにかく熱心に働く指導者の影響をうけて、家族の反対もおしきってがんばったことを記憶しております。

神様からたくさんのお恵みをうけて日々楽しい生活をしている今、あのときがなばつて良かった、と心から思います。もつと強い証詞をもちたいと望んでいた頃、突然伝道という大きなすばらしい召しをうけました。

「見よ、畑は早白くして刈り入れを待てり。故に刈り入れんと欲する者は、何れも勢力をつくして鎌を入れ、日の尽きざる中に刈り取りて、神の王国に於ける永遠の救いをその身と霊とのために貯うべし。」(教義と聖約、第十一章三節)

この聖句を思いおこしながら伝道生活に入つて一年半の間、奇蹟的な経験を何度したことでしょう。

各支部で本当に献身的な愛をうけ、うれしく同僚と泣きあつたこともございました。この機会を通して、霊の成長の大切さそして謙遜な氣持で神権者を支援し、尊敬することを学びました。

霊的な進歩をするように努力している若い兄弟姉妹を目にするたびに良いMIAを作らなければ……と強いファイトをおこさせられます。

支部MIA、地方部MIAで働く機会

があつたことを心から感謝しております。このことによつてMIAを学び、また若い多くの兄弟姉妹と話し合うことによつて、どのようなことをMIAの指導者に望んでいるかわかりました。そのような点を頭におき、今の責任を果たしていると思っております。

ブリガム・ヤングがYWMAを組織されましたとき、青年女子に対して「私は永い間、シオンの若い婦人たちを組織して一つの協会を作ることと考えていた。それは今迄に教えられてきている諸原則を広め、教え、これを実践することによつて我が教会の年長の会員達を援助出来るからである。イスラエルの若い婦人たちは真理の生きた証詞を得る必要がある」と云われました。

私たち若い姉妹たちが真理の生きた証詞と謙遜とを背景にして、自分の行動や他の人々の行動を判断する根拠となりうる考えをもたなくてはならないと思います。YWMAとして支部対抗のスポーツなどできるくらいの組織を持ちたいと望んでいます。

ジョージ・Q・モリス長老は「我々が絶えず続けて行ふことはおのずと習慣的なものとなるということとは定められて来て居り、習慣は「第二の天性」とも呼ばれているものである。私は良い習慣について語るとき、それが自然に自分自身に良い習慣をつけることのできる力、注意力を保持することになるので、大変幸い

であると思う」といわれていますが、神様のみ教えを学び、自分自身を進歩させようとする習慣を若いときから持つことはいかに大切であるか意味しているのだと思います。

忍耐して出席したならば必ず自分自身を見いだす何かを得るにちがいないと思います。

家族の反対をうけながら出席していらつしやる方もなかにはあると思いますので、プログラムを良くチェックして皆さまの御期待にそうように計画的なMIAにするよう努力したいと思っております。

MIAのテーマにあるように「神の栄光は英智なり、すなわち光明と真理なり」もつとたくさんの方の事を学び、そしてステーク部に近いMIAの組織を作りあげるようがんばりたいとほりきつていくところでございます。

並みの走者は息が切れるまで走って止める。

けれども徒競争の選手には常に走り続けさせる鉄の如き意志がある。

筋肉共に完全に疲れてはとる前者は休息を求め、

けれども選手は重い足をひきずりながらも走り続ける。

心の中の元氣と活力がそうさせているのだ。

並みの走者は優秀な点が解るとそれで満足するが

選手は最善を尽し更にもつと努力しようとする。

(30頁に続く)

扶助協会レッスン

ホームメーカーキング

セレスティア・J・テイラー

記録をつける

目標 家事の記録をつける大切さを示す
序 この何か月かを通して、様々な形で家族生活や生計に適用する家庭財政計画の大切なことを述べてきました。それには財政記録をとることが含まれます。――

特に家族が目標や希望を現実化し達成しようとするのを可能にする予算案の一つの形として。しかしながら財政記録だけに家族が関心を持てばそれでいいのではありません。家庭の運営は多くの点でビジネスの運営と似ています。ビジネスと同様、家族には重要な証書や価値ある資産、有価証券その他家族員にとって大切なものが多々あります。役にたち信頼できる記録のために記憶に頼ることが出来ないの必要な事柄は書かれた記録としてとっておかなくてはなりません。

討論

ほとんどの母親は一生に一、二度このような質問にぶつかります。

一、夫に何かが起きたときに対外的仕事をも含む家庭運営を行なえる準備がありますか。

二、緊急の場合において家族全員の血液型がわかりますか。

三、必要なときに子供たちの健康状態に関する事柄を提供できますか。

四、家族の資産がどのようなものであるかを知っていますか。所有物の証書、証明書などを提出できますか。

家族はどんな記録をもたなくてはならないのでしょうか。

主婦が記録が重要で有意義であると認めるなら彼女も夫同様どんな記録が家族にとって大切であるかを知る必要があります。主婦と夫は所有しているものと大切な証書や有価証券のしまい場所と家族の利益や保護のためにそれらをどのようにしておけるかを知る必要があります。次に家庭運営記録をとるときに役立つかもしれない事柄をリストにしてあげてみます。

一、家族の証書

大切な家族証書や証明書はいつでも利用できるように良い形で保存されなくてはなりません。普通次のものが含まれます。

a、社会保険証書

b、家族全員の誕生証明※

c、教会記録―バプテスマ、神権昇進、役職、その他

d、婚姻証明書※

e、夫婦両方の遺言書

二、投資

負債と同じく資産にも心してその記録

をとらなくてはなりません。

a、所有財産や所有権を示す証書、証明書

b、取扱い者を含む貸借その他銀行関係の事柄

1、小切手帳控え

2、支払いのレシート

c、公債証書や株式証書

三、利益

家族記録のうちの大切な一部は利益を得る権利が約束されているという知識を与えることです。

a、保険―保険料支払いとその日付

1、健康保険

2、火災保険

3、その他

b、年金

c、収益計画などすべて

四、健康記録

主婦はすべて家族の健康記録に関する質問にであうときに答えを知っている必要があります。

a、免疫―日付と種類

b、病氣、体質、感染性、アレルギー

c、かかりつけの医師、歯科医師

d、処方薬―使用、処方年月日その他

e、家族全員の血液型

五、カレンダーの行事記録

すべての家族は年月日のカレンダーを持ちそれに記録する必要があります。

a、学校関係

b、結婚式等、社会的約束

c、特別な用事

d、例年の約束事

六、個人的な家族の記録

各々の子供が赤ちゃん時代の写真から始まって大切な出来事を通して成長していく記録をとることはいかに大きな楽しみでしょう。このような記録は子供に自分の記録をつくる興味をわかせる家族のうちに誇りと尊厳の気持を与えるでしょう。

a、覚えの書

b、個人個人のスクラップブックと達成の記録

c、写真アルバム

d、家族旅行や休暇

e、家族の興味や趣味

概要

たとえ記録づくりがどんなに楽しく興味のあるものになっても記録はそれ自体が目的ではなく、家族の本質的な目標や希望を実現するための方法であるということを感じておくことが大切です。生活における他の仕事と同様に家族にとって大切な家庭運営の仕事は賢明に実行するときの価値ある道具として考え、そのように使われなくてはなりません。

節約計画

目標

注意深い計画と知識豊かな買物を通して家族は限られた予算内で充分美しく暮らすことの出来ることを

示す。

ノート

レッスンの素材や原則は目標を交えることなしに世界の各地域の文化や生活様式にあわせる必要があるでしょう。

序

家庭経営の問題の中で最も大切な一つは家族の衣服を準備することです。家族により衣服を用意することは簡単にできることではありません。そのために主婦は時間、お金、心がけ、知識、技術などいろいろなことを役だて使わなくてはなりません。彼女が注意深く計画しこれらを賢く使ったらその努力は予算内で家族が充分美しく着ていることの中に報われるでしょう。その助けとなる手順をあげてみましょう。

(1) 家族の衣服の必要なものを決定する。(2) 予算を検討していかしたら被服費を最上に見えるかを決める。(3) 上手で賢明な買い手になることを学ぶ。

被服に関する経済性はただ購買価格のみ判断することは出来ません。すべての支出にはそのものの価格に加えて洗濯修理、更正、交替、予期しない緊急の追加等手入れのための事柄が含まれます。

購買に関してくわしい要求は前もって決まなくてはなりません。たとえばコートを買う際に型や色やもたせたいと思う期間について決定しなければなりません。その品物がどれだけでもつかも考えに

入れるべきです。それが要求される使用に耐えられなかったらいくら安くともへたな買物です。短い流行の間だけしか着られないものは選ぶべきでないでしょう。また型や色が古い衣服は時節にあうものよりもスマートでないでしょう。一シーズンだけでなくずっと長く着たい衣服は良い品でなくてはなりません。それには繊維や構造が大切です。衣服の寿命を伸ばせば価格は低いことになります。

三年着る冬オーバーは一年のものより高くとも経済的な買物です。被服費の節約は買うかわりに家で作ることによって実現されます。お金の節約に加えて家庭洋裁の利点は身体によくあうという満足や材料を選べるということや着る人の成長にあわせられることや自分で創る楽しさと完成の喜びでしょう。充分によく使える状態なら更正した衣服は意義の深い節約です。それに必要な技術は扶助協会において学びました。

上手な買物

現代の消費文明は買手を魅きつけようと計画されています。買手が何を買いたいのか買うときに何を探しているのかを知っていなければ無駄使いをし結局予算を超える衝動買いをするでしょう。買手が知っていないくなくてはならないこと、行わなくてはならないことを幾つかあげます。

1、いろいろな衣服の品を買うのに最も良いときを知らなくてはなりません。殆

んどのお店は決まったスケジュールに従ってセールをしています。

2、新聞、雑誌、広告などを見て価格を比べなければなりません。

3、繊維の知識を持ち衣服や材質のラベルを理解しなくてはなりません。それをどのように扱ったらよいかも指示されています。ドライクリーニングか手で洗うか洗濯機か、アイロンやプレスには何度くらいがよいかなど。しわに強いかわオッシュュアンドウェアが防水か縮むかなど染めの段階や品質もあげられています。

4、よい仕立ての衣服を区別出来なくてはなりません。シームのかがりや幅、ボタンホール、ファスナー他の始末やヘムを見るのが出来なくてはなりません。衣服のあい具合、カットの具合や型に気がつかなくてはなりません。荒い使用にも耐えるようしっかりした仕立てで補強してあるものを探さない。

5、現金販売の店は安い値段であるようです。クレジットを使う場合にも現金で買うと同じように注意深く買う必要があります。

6、予定通りの目的にかなうものだけを買いなさい。衣服を衝動で買った、バーゲンセールだからと買ったりしてあとで手持ちの衣服類と調和しないことがわかってしまうのもありません。

7、店までの距離や時間やエネルギーが買物の値段に含まれることをも心にとめ

ていなくてはなりません。

実行と考察

A、現在のあなたが持っている衣服類を検討して、何が必要で何を買うかを見積りなさい。それは被服費予算より多いでしょうか。少いでしょうか。必要な衣服を買いいますか。作りますか。なぜそのように決めますか。

B、最近のあなたの買物を反省しなさい。良い買物と悪い買物を。そして各々について以下の質問を討議しなさい。

1、なぜその品物が特に欲しかったか。

2、それは衝動買いだったか、前もって計画したか。

3、繊維、その内容、つくりその他その衣服に関してどのような知識を得たか。

4、その衣服をどう感じたか。なにか批評や注文がでたか。

5、良い買物、悪い買物と考える理由は何か。

結論

主婦は家族みんなが美しく身にあった衣服をつけていて許された予算を超えないときに、誇りを感じる事が出来ま

す。彼女は必要な知識や技術を計画し実行するときにとられた時間や体力や努力が報われたことを感じるでしょう。衣服に関する経済性は単に購買価格のみ判断できません。その価格に加えて洗濯、修理、更正、交替、予期しない緊急の追加などすべての支出には手入れの数々が含まれているのです。

聖徒の道は

私たちが真理を知る「てだて」であり

私たちの心と心がかよう道です

あなたの霊の進歩のために

あなたの信仰のかてのために

お役に立つ本であればと思います

支部所在地

北海道地方部

旭川 旭川市8条5丁目
MIA集会所 旭川公会堂
電話 (0166-2-1545)
室蘭 室蘭市幸町89
電話 (0143-2-7054)
小樽 小樽市富岡町1-35
電話 (0134-2-8224)
札幌 札幌市南20条西16丁目
電話 (0122-56-7175)

東中央地方部

群馬 高崎市並榎町275
電話 (0273-22-7121)
甲府 甲府市中央3丁目12-2
電話 (0552-3-2409)
松本 松本市開智1-1-6
電話 (02634-3-8093)
新潟 新潟市明石通3-40-1
仙台 仙台市光禅寺通り28
電話 (0222-25-0897)
東京中央 東京都港区北青山3-6-4
電話 (03-400-3307)
東京北 東京都中野区江原町1-8-14
電話 (03-953-8244)
東京東 東京都江戸川区西小岩5-8-6
電話 (03-658-7310)
東京南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (03-729-6311)
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-7-7
電話 (0422-22-6764)
山形 山形市七日町4-12-23
電話 (02362-3-3380)
横浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (045-401-8772)

西中央地方部

阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (06-623-4315)
福岡 福岡市浄水町46
電話 (092-52-8653)
広島 広島市高須2-7-29
電話 (0822-71-5309)
金沢 金沢市兼六元町3-8
電話 (0762-21-2131)
京都 京都市左京区下鴨松原町44
電話 (075-70-4067)
名古屋 名古屋市昭和区北山町3-41
電話 (052-731-4210)
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4-54
電話 (0798-51-0141)
岡町 大阪府豊中市岡町北2-18
電話 (068-52-1236)
岡山 岡山市学南町1-13-11
電話 (0862-52-3560)
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町4-35
電話 (078-86-2602)
柳井 山口県柳井市今市391
電話 (106 申込柳井7)

沖縄地方部

普天間 沖縄宜野湾市野嵩区328
那覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (3-1620)
建築部事務所 東京都港区北青山3-6-4
電話 (400-4080)

聖徒の道

一九六七年十二月二十日発行

振替口座 東京一六二二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所

東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会

電話 四七三十一六一三

印刷所 株式会社三五堂

定価七十円

一年予約七〇〇円(申込は支部長まで)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

ラザロ生きかえる



7. ペレア伝道

イエスを捕えようとする

はりつけ



8. 最後の週

山上の変貌



6. 後期のユダヤ伝道

オリヴ山からの昇天



9. 復活

十二使徒を召す



5. 第三部

バプテスマ



1. 準備
誕生

ニコデモの来訪



2. 早期のユダヤ伝道

山上の垂訓



4. 第二部

3. ガリラヤ伝道第一部

キリスト生涯の年代記

1. エジプトへの逃避 神殿訪問
2. 荒野の経験、将来の使徒たちとの経験。最初の奇跡、正式の伝道開始、バプテスマを受け、ヨルダンで教える、バプテスマのヨハネ投獄される。
3. イエスだけが教え奇跡を行う
4. 十二人の教育、バプテスマのヨハネ首切られる。イエスを王にしようとする。
5. 北方への出発、十二人に特別の神権の鍵と特別な指示が与えられた、七十人が遣わされた。
6. 彼の弟子たちは会堂から追出された。ユダヤ人たちはイエスを石で打ち殺そうとした。
7. アンテパス、イエスを殺そうとする。ユダヤの指導者たちは、彼を殺そうとはかる。パレスティナの最後の旅
8. 凱旋入城、神殿を潔める。最後の晩餐
9. ユダヤに現われる ガリラヤに現われる。

